

調査研究業務受託（酒田市）報告書  
「令和3年度 酒田市観光に関する調査研究」

三木 潤一 （東北公益文科大学 公益学部）  
小嶋 健太 （関西大学 経済学部）  
川崎 雄二郎（名古屋工業大学 大学院工学研究科）

- 1 はじめに
  - 2 アンケート調査内容
    2. 1 アンケート調査実施方法
    2. 2 アンケート調査票
    2. 3 データ集計方法
  - 3 アンケート調査集計結果
    3. 1 旅行者の個人属性
    3. 2 旅行の特徴
    3. 3 酒田市内における消費単価
    3. 4 観光に対する評価
  - 4 観光地間の移動に関する分析
    4. 1 旅行者の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 2 年齢別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 3 「家族」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 4 「友人・知人」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 5 世帯年収別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 6 同行グループ構成別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 7 利用交通手段別の訪問傾向・訪問地点の数
    4. 8 最初に訪問する地点・最後に訪問する地点
  - 5 離散選択モデルに基づく回帰分析
    5. 1 モデル
    5. 2 変数の説明
    5. 3 分析結果と含意
  - 6 政策提言
- 参考文献

## 1 はじめに

本受託研究の目的は過年度から引き続き、観光産業に関する市場に焦点を当て、酒田市民所得の向上につながる地域振興政策を提言することである。この目的を達成するため、酒田市を訪れる観光客に対するアンケート調査を本年度も新たに方法や内容を変更して実施し、とりわけ実証産業組織論の分野で発展してきた離散選択モデルに基づく手法を応用するなどして、酒田市においてどのような政策介入が観光産業に資するかについて検討する。

## 2 アンケート調査内容

### 2. 1 アンケート調査実施方法

本受託研究におけるアンケート調査は、酒田市を訪れた観光客を対象として、筆者が作成に関与したアンケート調査票に基づき、酒田市企画調整課が調査主体となって実施したものである。調査期間は令和3年9月15日～令和3年12月15日である。調査方法等は、次の通りである。

#### 【調査方法】

市内宿泊施設等にアンケート用紙を設置し、観光客が帰宅後に記入のうえ、返信用封筒を用いて酒田市（企画調整課）に郵送する。ただし、山居倉庫（酒田観光ガイド協会）においては、直接調査票を配布し、観光客が帰宅後に回答を行い、返信用封筒を用いて酒田市に郵送することを依頼する。なお、返信用封筒は後納郵便で酒田市が郵送料を支払うため、回答者の金銭負担は生じない。回収率向上のため、施設ごとにQRコードを設置し、Webでの回答も実施する。

また、回収率を上げるため、回答者のうち、抽選で50名に景品（つや姫2kg）を贈呈する。

#### 【調査票配布数】

1800部

#### 【調査回答数】

422部（Webでの回答11部を含む）

#### 【調査票配布場所】

ホテルイン酒田 200部・月のホテル 200部・ミライニ 200部・ホテルリッチ&ガーデン酒田 200部・さかたセントラルホテル 200部・酒田グリーンホテル 100部・若葉旅館 100部・山居倉庫（酒田観光ガイド協会） 400部・本間美術館 50部・山王くらぶ（酒田まちづくり開発） 50部・土門拳記念館 50部・オランダせんべいファクトリー 50部

アンケート調査票は、2. 2節（次頁以下）に示す通りである。また、本アンケート調査結果の利用については、東北公益文科大学の研究倫理審査において、承認の判定を受けている。

## 2. 2 アンケート調査票

# アンケート調査へのご協力をお願い —令和3年度酒田市観光動向調査—

酒田市では、今後の観光振興の参考資料とさせて頂くため、酒田市における観光の動向について調査を行っています。今回の旅行の訪問先、旅行に使った費用等についてお聞きするものです。

ご協力いただいた方に、抽選で50名様に庄内産米（つや姫）2kgを送ります。（当選は発送をもって替えさせていただきます）

調査主体：酒田市企画調整課／電話番号：0234-26-5704／メール：kikaku@city.sakata.lg.jp

### ご記入にあたってのお願い

- この調査は、今回のあなたの旅行についてお伺いするものです。
- 各質問に対して、あてはまる選択肢の番号を○で囲むか、もしくは、数字をご記入下さい。
- あてはまる選択肢の番号を○で囲む場合は、質問の文末の「1つだけ」「複数回答可」にご注意の上、ご記入下さい。
- 選択肢の「その他」をお選びの場合は、（ ）内にその内容を具体的に記入下さい。

Q1 今回の旅行開始日を教えてください。

\_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

Q2 酒田市を訪れるのは今回で何回目ですか。 ※1つだけ

①初めて ②2回目 ③3回目 ④4回以上

Q3 今回の旅行の主要な目的は何ですか。 ※1つだけ

①ビジネス ②観光 ③買い物 ④イベント参加 ⑤食事 ⑥帰省・知人訪問  
⑦その他（ \_\_\_\_\_ ）

Q4 今回の旅行は一人旅でしたか。

①はい（Q5へ） ②いいえ（Q6へ）

Q5 Q2で「②いいえ」と回答された方にお聞きします。今回の旅行に同行された方（あなたご自身以外）の人数を性別・年齢層別にお答えください。

※ 団体旅行の際に一緒に乗り合わせた方については記載不要です。

男 性								
9歳以下	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
人	人	人	人	人	人	人	人	人
女 性								
9歳以下	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
人	人	人	人	人	人	人	人	人

Q6 Q4で「②いいえ」と回答された方にお聞きします。今回の旅行に同行された方はどのような方ですか。 ※複数回答可

①家族（夫婦・子供・親・兄弟・その他家族や親族） ②友人・知人  
③旅行者等が販売するツアーパック ④職場・学校等の団体旅行 ⑤その他（ \_\_\_\_\_ ）

Q7 今回の旅行は酒田市内のみの観光でしたか。

- ①はい ⇒酒田市での泊数をご記入ください。  
 ②いいえ ⇒訪問した地域（山形県内なら市町村名、県外なら県名）と泊数をご記入ください。  
 [日帰りで訪問した場合は「0泊」とご記入ください。]

訪問した地域（山形県内）		泊数	訪問した地域（山形県外）		泊数
山形県	酒田市	泊	秋田県		泊
山形県	鶴岡市	泊	新潟県		泊
山形県	遊佐町	泊	宮城県		泊
山形県	山形市	泊	福島県		泊
山形県	尾花沢市	泊	その他の都道府県（ ）		泊
山形県	その他の市町村（ ）	泊	その他の都道府県（ ）		泊
山形県	その他の市町村（ ）	泊	その他の都道府県（ ）		泊

Q8 今回の旅行で酒田市に滞在した時間を教えてください。 ※ 1つだけ

- ①0～1時間 ②1～2時間 ③2～3時間 ④3～4時間 ⑤4～5時間 ⑥5～6時間  
 ⑦6～12時間 ⑧12～24時間⑨24時間以上

Q9 今回の旅行を通して訪れた酒田市内の観光スポットを、このページ下部にある選択肢群のうちから訪れた順に番号で教えてください。 ※ 矢印「→」が足りなければ追加してご記入ください。

( → → → → → → → → )

Q10 今回の酒田市での旅行の中で、訪問を考えたが交通の便の悪さを理由に行かなかった観光スポットはありましたか。

- ①いいえ  
 ②はい ⇒そのような観光スポットが以下の選択肢群にありましたら番号で教えてください。

( ) ※ 複数回答可

1	山居倉庫（酒田夢の倶楽）	11	オランダせんべい FACTORY	21	湯の台温泉鳥海山荘
2	山居倉庫（庄内米歴史資料館）	12	本間美術館	22	鶴間池
3	本間家旧本邸	13	浄福寺（唐門）	23	鳥海山湯の台登山口
4	酒田市立資料館	14	土門拳記念館	24	八幡エリア（ゆりんこ、産直たわわなど）
5	旧鎧屋	15	酒田市美術館	25	眺海の森エリア（展望台、森の家など）
6	舞娘茶屋相馬樓（酒田舞娘）	16	出羽遊心館	26	松山エリア（總光寺、文化伝承館など）
7	山王くらぶ	17	南洲神社	27	平田エリア（十二滝、アイアイひらたなど）
8	海向寺（即身仏堂）	18	蔵探訪館（初孫酒造資料館）	28	飛鳥エリア
9	日和山公園	19	玉簾の滝	29	その他（ ）
10	さかた海鮮市場・みなと市場	20	鳥海高原家族旅行村		

Q11 今回の酒田市内における旅行を通して、観光スポットを巡る際に主に用いた交通手段を教えてください。 ※ 複数回答可

- ①自家用車または社用・公用車 ②レンタカー ③路線バス ④観光バス・貸切バス  
 ⑤タクシー・ハイヤー ⑥自転車 ⑦徒歩 ⑧その他（ ）

Q12 今回の旅行全体を通して、居住地を出てから居住地に戻るまでの移動に主に用いた交通手段を教えてください。 ※ 複数回答可

- ①飛行機 ②鉄道 ③自家用車または社用・公用車 ④レンタカー ⑤路線バス・高速バス  
 ⑥観光バス・貸切バス ⑦タクシー・ハイヤー ⑧自転車 ⑨徒歩 ⑩その他（ ）

Q13 今回の旅行における支出額を項目別に同行者の分も含めた総額でお答えください。

ツアーパックの場合

(1) パック代金総額を記入し、それに含まれる内容すべてに○をつけてください。 ※ 複数回答可

総額： ( ,000 円) ※ 千円単位で答えてください(百円の位は四捨五入)

内容： 交通費 宿泊代 飲食費(昼) 飲食費(夜) 買物代 入場料・拝観料 その他

(2) 下の表にパック代金に含まれない支出額をお答えください。

ツアーパックでない場合

下の表に支出額をお答えください。 ※ 千円単位で答えてください(百円の位は四捨五入)

	今回の旅行全体	うち 酒田市内
交通費	,000 円	,000 円
宿泊代	,000 円	,000 円
飲食費(昼)	,000 円	,000 円
飲食費(夜)	,000 円	,000 円
買物代	,000 円	,000 円
入場料・拝観料	,000 円	,000 円
その他(体験費用等)	,000 円	,000 円

Q14 あなたは今回の旅行において、酒田市の情報をどこから入手されましたか。 ※ 複数回答可

- ①ガイドブック ②旅行専門雑誌 ③パンフレット ④新聞・雑誌 ⑤テレビ・ラジオ  
 ⑥家族・友人の話 ⑦旅行会社 ⑧観光案内所 ⑨インターネット(パソコンを経由)  
 ⑩インターネット(スマートフォン・携帯電話から)  
 ⑪SNS(Facebook / Twitter / Instagram など)  
 ⑫その他 ( )

Q15 今回の旅行を終えて、全体としてどれくらい満足していますか。 ※ 1つだけ

- ①たいへん満足している ②満足している ③不満である ④たいへん不満である

Q16 今回の旅行を終えて、酒田市内にどれくらい満足していますか。 ※ 1つだけ

- ①たいへん満足している ②満足している ③不満である ④たいへん不満である

Q17 今回の旅行において酒田市のどの点に魅力を感じましたか。 ※ 複数回答可

- ①名所・旧跡 ②自然・風景 ③伝統文化 ④美術館・博物館 ⑤宿泊 ⑥街並み  
 ⑦街の清潔さ ⑧飲食 ⑨買物(お土産・名産品など) ⑩観光案内所での情報提供  
 ⑪公共交通機関 ⑫交通状況(道路の渋滞等) ⑬ガイドなど出会った人  
 ⑭その他 ( )

Q18 再び酒田市を観光で訪れたいと思いますか。 ※ 1つだけ

- ①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

Q 1 9 親しい友人に酒田市への観光を勧めたいと思いますか。 ※ 1つだけ

- ①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

Q 2 0 酒田市や庄内地方への移住についてどのように考えますか。 ※ 1つだけ

- ①とても関心がある ②やや関心がある ③あまり関心がない ④まったく関心がない

Q 2 1 あなたの性別を選んで下さい。 ※ 1つだけ

- ①男性 ②女性 ③その他

Q 2 2 あなたの年齢を選んで下さい。 ※ 1つだけ

- ①0～9 歳 ②10～19 歳 ③20～29 歳 ④30～39 歳 ⑤40～49 歳  
⑥50～59 歳 ⑦60～69 歳 ⑧70～79 歳 ⑨80 歳以上

Q 2 3 あなたの世帯の昨年の収入額を選んでください。 ※ 1つだけ

※自営業の場合は、売上高から必要経費を差し引いた金額を選択してください。

- ①収入なし ②1 円～299 万円 ③300 万円～499 万円 ④500 万円～699 万円  
⑤700 万円～899 万円 ⑥900 万円～1,099 万円 ⑦1,100 万円以上

Q 2 4 今回の旅行で、GoTo トラベルキャンペーンのような宿泊の割引などを伴う類似のキャンペーンを利用しましたか。

- ①はい ②いいえ

Q 2 5 酒田市に対する印象を教えてください。(自由記載)

———調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。———

景品発送のため、以下の内容をご回答ください。

氏 名: \_\_\_\_\_

郵便番号: 〒 \_\_\_\_\_

住 所: \_\_\_\_\_

電話番号: \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ )

## 2. 3 データ集計方法

回収したアンケート調査票のデータ化においては二重入力を行い、突合の結果不一致となった内容については精査した。本節では、アンケート調査によって得られたデータの集計方法について、不規則な回答の処理を中心に説明する。

### ■同行者の人数

Q 5 では団体旅行の際に一緒に乗り合わせただけの人について人数を回答しなくてよいことにしていたが、同行人数の極端な多さから、一緒に乗り合わせていた人を含めた人数を回答していると推察される場合が少数ながらあった。この場合、Q 1 3 で尋ねた支出額に基づいて旅行者 1 人あたりの支出額を求めると、極めて小さな現実的にはありえない金額になる。したがって、酒田市内の消費単価を示すときには、同行者が「27 人」以上いる人をサンプルから除外した。

### ■同行者の属性

Q 6 では複数回答を許容したため、主要な同行者の属性を 1 つに特定した。たとえば、「①家族」と「③旅行者等が販売するツアーパック」の両方を選択している場合、回答者は家族と一緒に旅行したとみなした。

また、「⑤その他」の回答の中に「仕事仲間」、「会社同僚」などの回答があったが、これらは「職場の人」という新たなカテゴリーに分類した。

### ■支出額

Q 1 3 については、いずれかの項目で支出額を回答しているならば、無回答の項目は支出額を「0 円」とみなした。すべての項目が無回答である場合は、支出額が不明なものとして処理した。

### ■訪問した地域と観光地

Q 7 で酒田市内のみの観光であったかどうかを回答していない場合、酒田市以外の地域を訪問していなければ酒田市内のみの旅行とみなし、酒田市以外の地域に泊数の記入があれば（「0 泊」を含む）他地域にも旅行したとみなした。

酒田市の泊数が記入されていない場合、Q 1 3 で酒田市内の宿泊代について正の値を回答していれば、酒田市に宿泊したとみなした。ただし、泊数は不明のままとした。

酒田市に宿泊していないと回答しているにもかかわらず市内の宿泊代を正の値で回答している場合、回答の整合性がとれないため、酒田市内の消費単価を示す際にはサンプルから除外した。



#### ■酒田市内における交通手段

Q 1 1 では酒田市内の観光地を巡る際に用いたすべての交通手段を尋ねており、さまざまな回答パターンが存在した。これらのパターンから、酒田市内で利用された主要な交通手段を特定し、自家用車、レンタカー、路線バス、観光バス・貸切バス、タクシー、自転車、徒歩の7つに分けた。たとえば、自家用車または社用・公用車を用いているならば、他の交通手段を同時に利用しているとしても、主な交通手段は自家用車であると判断した。

### 3 アンケート集計結果

本章では、アンケート調査によって得られた集計データを基に酒田市観光の実態について、旅行者の個人属性、旅行の特徴、酒田市内における消費単価、酒田市への旅行に対する満足度等の順に説明する。

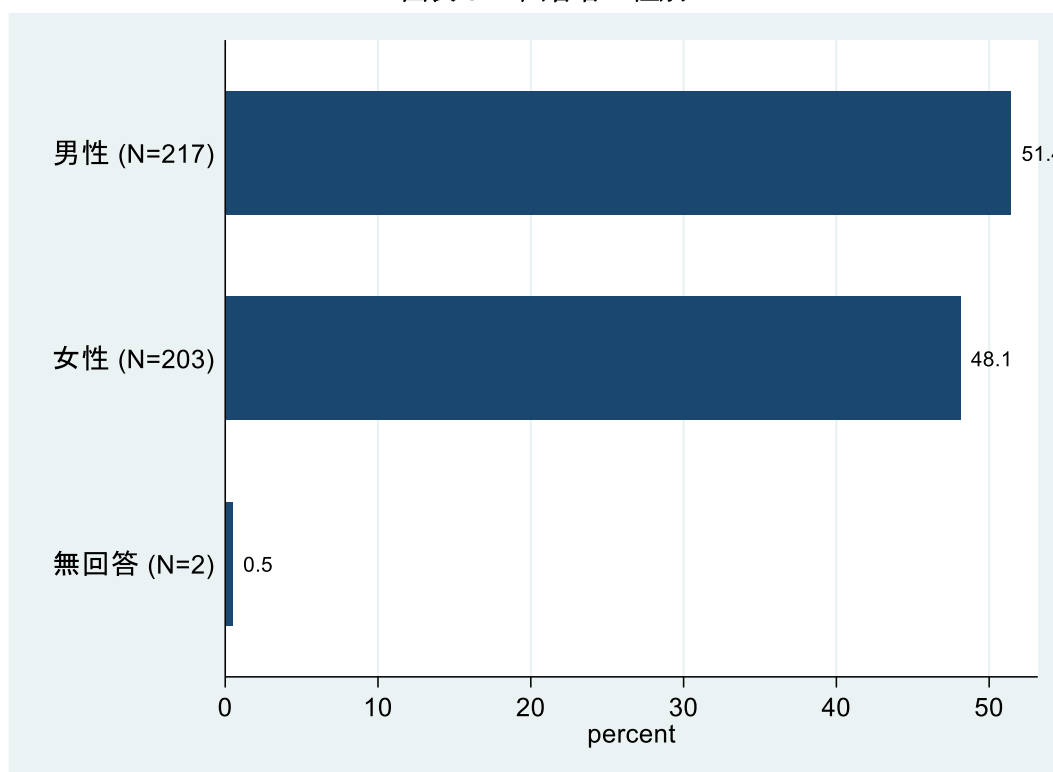
質問紙による回答が411名、Webによる回答が11名、合わせて422名から回答を得た。

#### 3.1 旅行者の個人属性

##### ■性別

アンケート調査に対する回答者の性別の分布は、男性が51.4%、女性が48.1%、無回答が0.5%であった（図表3-1）。

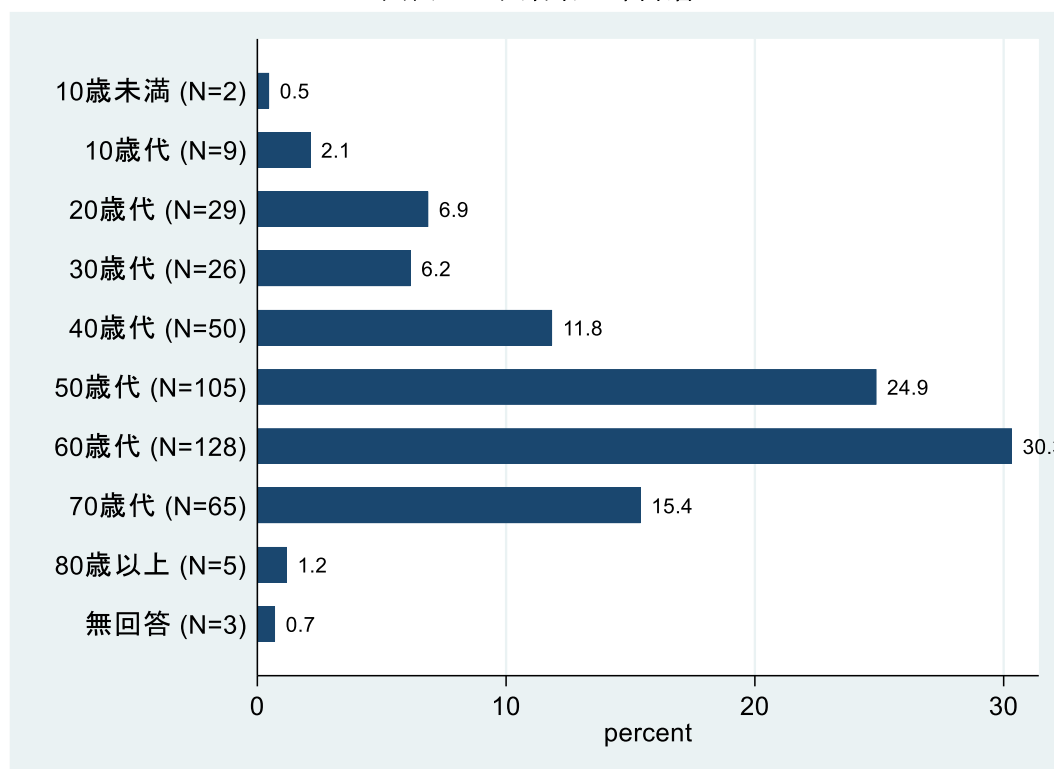
図表 3-1 回答者の性別



### ■年齢

回答者の年齢層の分布は図表 3-2 の通りである。60 歳代が 30.3%で最も多く、次いで 50 歳代が 24.9%、70 歳代が 15.4%であった。50 歳以上の方が 7 割超を占めることになる。

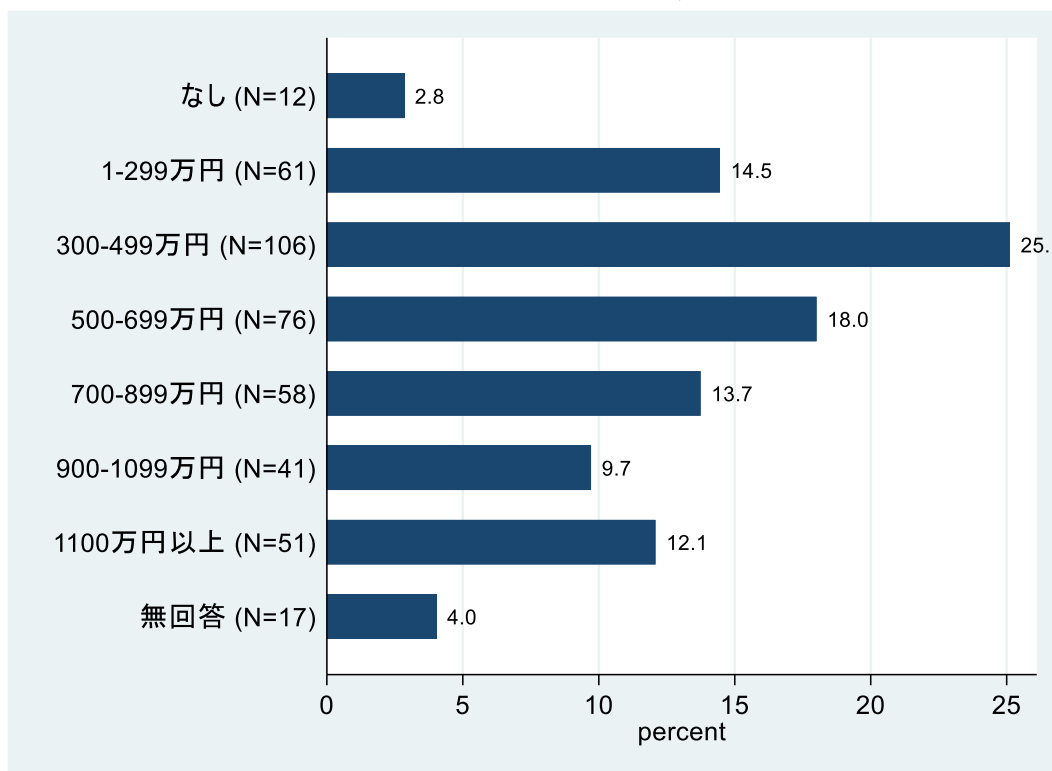
図表 3-2 回答者の年齢層



### ■世帯年収

回答者の世帯年収の分布は図表 3-3 の通りである。300 万円～499 万円が 25.1%で最も多く、次いで 500 万円～699 万円が 18.0%、300 万円未満が 17.3%であった。700 万円未満の世帯が約 6 割を占めることになる。

図表 3-3 回答者の世帯年収



### 3. 2 旅行の特徴

#### ■旅行の目的

旅行の主要な目的は図表 3-4 の通りである。調査票では単一回答を求めていたが、ごく少数ながら複数回答している場合があったため、主要な目的を示している。回答者のほとんどが観光を目的に酒田市へ旅行しており、ビジネスや帰省・知人訪問が目的であった人もいる。

図表 3-4 旅行の目的

	人数	(%)
ビジネス	35	8.3
観光	310	73.5
買い物	5	1.2
イベント参加	18	4.3
食事	12	2.8
帰省・知人訪問	40	9.5
無回答	2	0.5
計	422	100

### ■同行者の有無・属性

同行者を伴った旅行であったかどうかについては、回答者の 80.6%にあたる 340 人が誰かと一緒に旅行しており、一人旅の人は 19.2%であった。また、同行者の属性については図表 3-5 に示している。同行者がいた人の中で、家族と一緒に旅行している人は 64.1%と最も多く、次いで友人・知人と一緒に旅行している人が 18.5%となっている。

図表 3-5 同行者の属性

	人数	(%)
家族	218	64.1
友人・知人	63	18.5
ツアーパック	9	2.7
団体旅行(職場・学校等)	30	8.8
職場の人	10	2.9
無回答	10	2.9
計	340	100

### ■旅行の行先

旅行での行先については、回答者の 36.5%が酒田市内のみ、63.5%は酒田市以外にも旅行した。図表 3-6 は、行先が酒田市内のみであったかどうかと酒田市内に宿泊したかどうかとのクロス表である。これによれば、酒田市内のみの旅行であった人はどちらかと言えば市内に宿泊しているが、酒田市以外にも旅行した人はどちらかと言えば酒田市には日帰りで訪問したことがわかる。

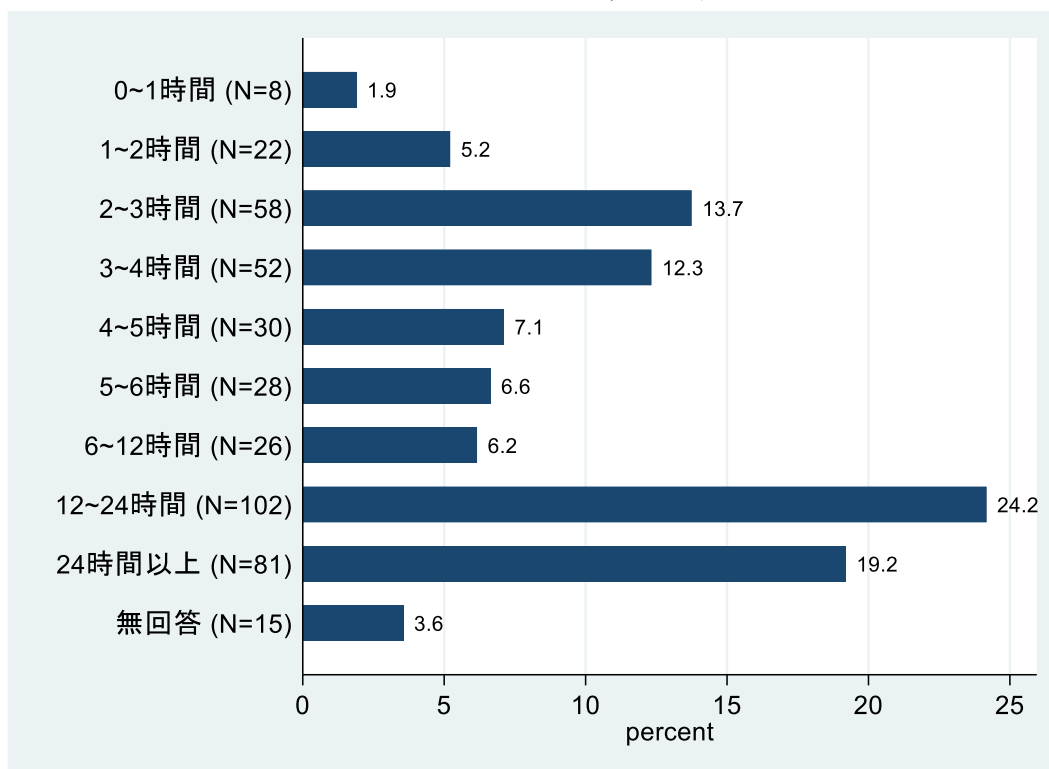
図表 3-6 旅行の行先

	酒田市内に 宿泊	酒田市を 日帰りで訪問	不明	計
酒田市内のみの旅行	91	55	8	154
酒田市以外にも旅行	117	123	28	268
計	208	178	36	422

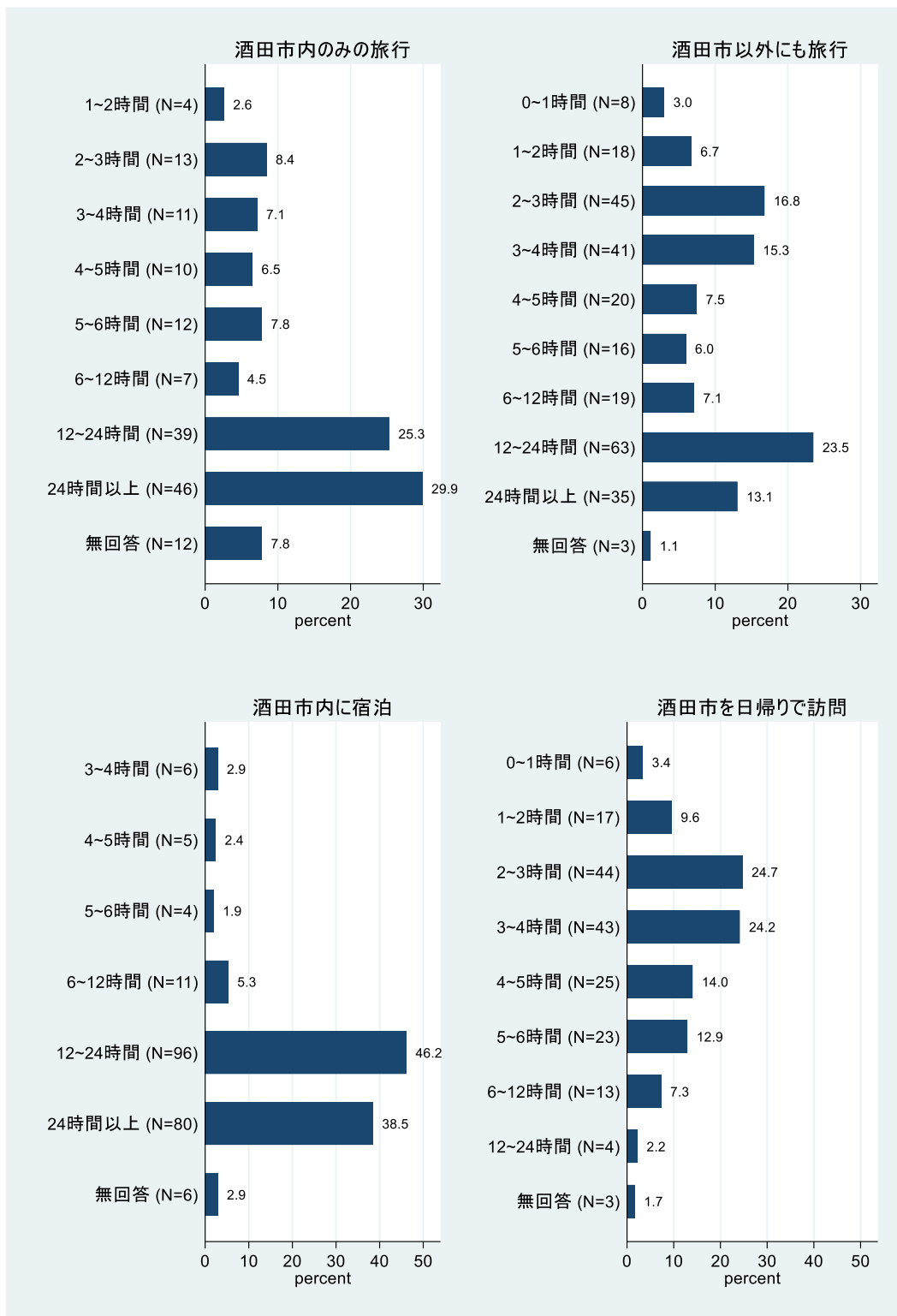
### ■酒田市の滞在時間

図表 3-7 は、酒田市の滞在時間を示している。約 4 割が半日以上滞在している一方で、5 時間以下の滞在であった人も約 4 割いる。また、図表 3-8 に示した通り、酒田市内のみの旅行であった人ほど長く滞在している傾向があり、市内に宿泊した人は明らかに滞在時間が長い。

図表 3-7 酒田市の滞在時間



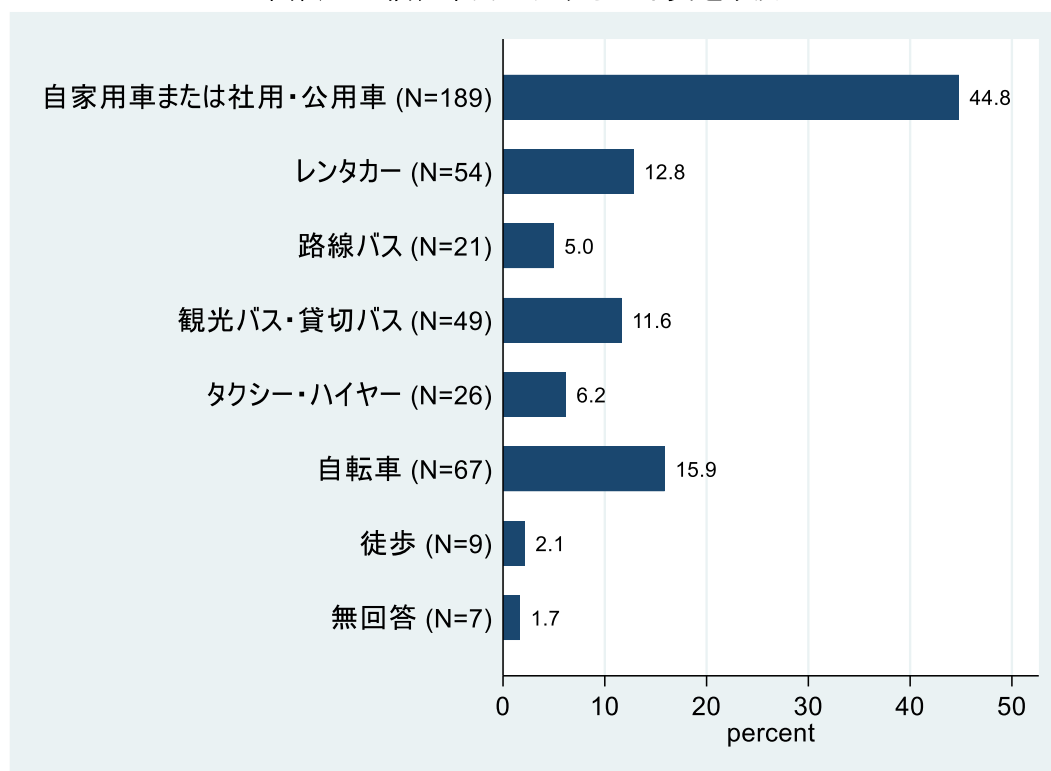
図表 3-8 酒田市の滞在時間（タイプ別）



### ■市内観光における主な交通手段

酒田市内における主な交通手段は、自家用車または社用・公用車が 44.8%と最も多く、次いで自転車が 15.9%、レンタカーが 12.8%、観光バス・貸切バスが 11.6%となっている（図表 3-9）。主に自転車を利用した人の割合が昨年度の調査結果よりやや増えている。図表 3-10 は、回答者の世帯年収と酒田市内における主な交通手段との関係を示したものである。路線バスや観光バス・貸切バスを利用した人は世帯年収が比較的低い傾向があるものの、それ以外の交通手段については世帯年収に特有な分布が観察されるわけではない。また、自転車を利用した人がとりわけ世帯年収が低いわけではなく、どの年収の層でも一定程度の利用者がいる。

図表 3-9 酒田市内における主な交通手段





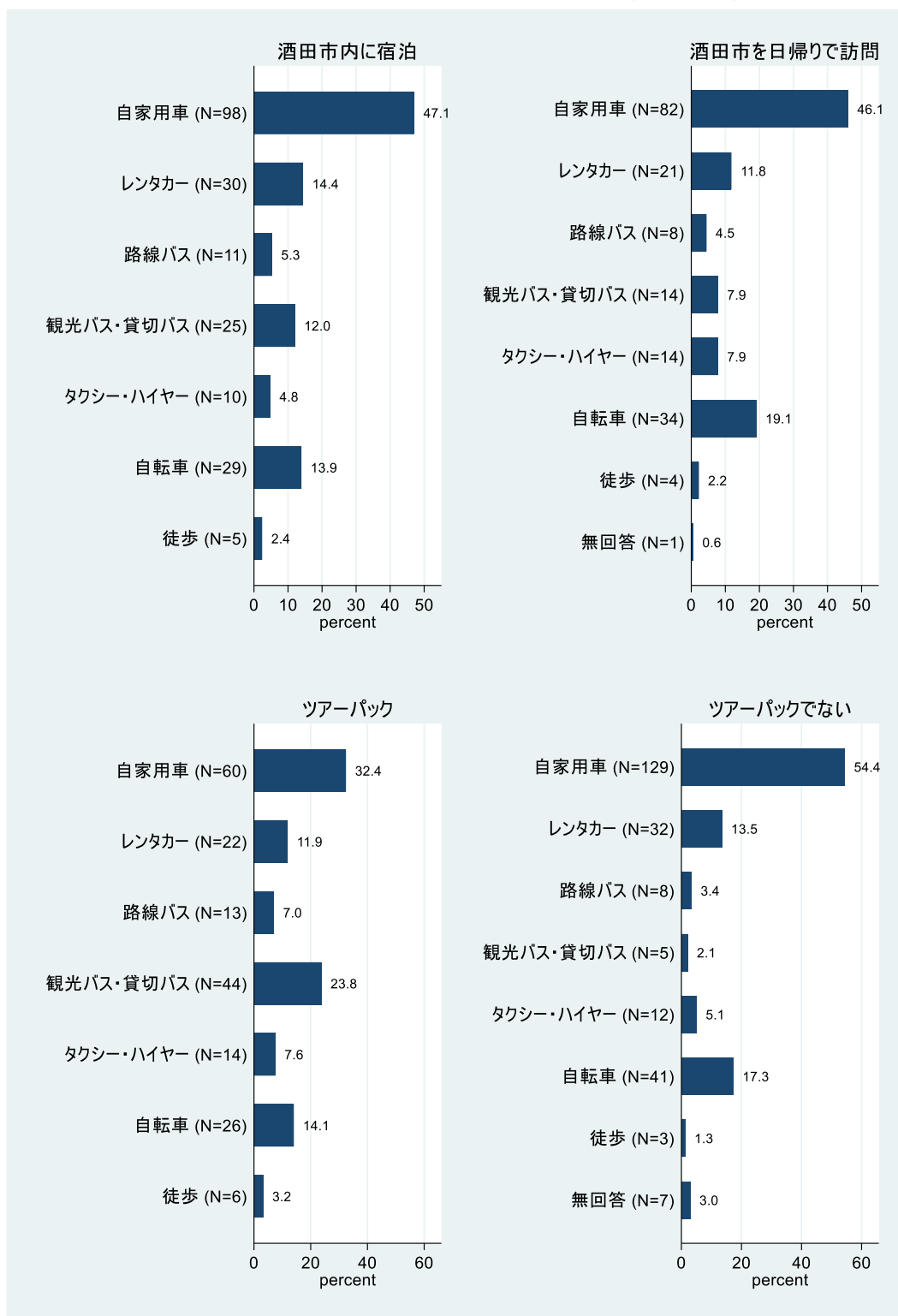
図表 3-10 回答者の世帯年収と酒田市内における主な交通手段のクロス表

	酒田市内における主な交通手段							計
	自家用車 または 社用・公用車	レンタカー	路線バス	観光バス・ 貸切バス	タクシー・ ハイヤー	自転車	徒歩	
なし	6 (3.3)	1 (1.9)	0 (0)	3 (6.5)	0 (0)	2 (3.1)	0 (0)	12 (3)
1-299万円	23 (12.8)	10 (18.5)	7 (36.8)	4 (8.7)	2 (7.7)	9 (14.1)	2 (22.2)	57 (14.3)
300万-499万円	48 (26.7)	9 (16.7)	6 (31.6)	19 (41.3)	6 (23.1)	17 (26.6)	0 (0)	105 (26.4)
世帯 年 収 500万-699万円	34 (18.9)	9 (16.7)	4 (21.1)	10 (21.7)	4 (15.4)	11 (17.2)	2 (22.2)	74 (18.6)
700万-899万円	29 (16.1)	8 (14.8)	2 (10.5)	5 (10.9)	6 (23.1)	7 (10.9)	1 (11.1)	58 (14.6)
900万-1,099万円	21 (11.7)	4 (7.4)	0 (0)	3 (6.5)	3 (11.5)	8 (12.5)	2 (22.2)	41 (10.3)
1,100万円以上	19 (10.6)	13 (24.1)	0 (0)	2 (4.4)	5 (19.2)	10 (15.6)	2 (22.2)	51 (12.8)
計	180 (100)	54 (100)	19 (100)	46 (100)	26 (100)	64 (100)	9 (100)	398 (100)

(注)カッコ内の数値は主な交通手段ごとに占める割合である。

図表 3-11 は主な交通手段を旅行のタイプ別に示したものである。酒田市内に宿泊した人の方が日帰りで訪問した人に比べて観光バス・貸切バスを用いている傾向があり、日帰りで訪問した人の方が自転車を利用している。また、ツアーパックでの旅行だった人は、ツアーパックでない人に比べて自家用車の利用が少なく、観光バス・貸切バスの利用が多く、自転車の利用が少ない。もし新型コロナウイルスが旅行者の行動に影響を与えているのだとすれば、自転車を利用した人は、自身の感染リスクを考慮し、個人で計画して近隣から日帰りで酒田市を訪れた可能性がある。

図表 3-11 酒田市内における主な交通手段（タイプ別）



### 3. 3 酒田市内における消費単価

酒田市内における消費単価について考察する。2. 3節で説明した通り、消費単価の異常値が生じないように、同行者が27人以上いる人、酒田市に宿泊していないと回答しているにもかかわらず市内の宿泊代を正の値で回答している人をサンプルから除外した。

ツアーパックでない場合、回答者は酒田市内での支出金額を支出項目ごとに回答しているので、その数値を用いる。ツアーパックの場合、回答者はパック代金総額とそれに含まれない酒田市内での支出金額を回答しているが、ここでは後者の数値を用いる。その理由は次の2つである。ひとつは、パック代金総額に含まれる内容は回答者によってまちまちであり、支出項目ごとの内訳を適切に推計することは難しいからである。もうひとつは、回答者が酒田市以外の地域にも旅行した場合、パック代金総額のうちどれだけが酒田市内での支出額に相当するかを適切に推計することは難しいからである。ツアーパックの場合とそうでない場合で、支出項目ごとの金額の意味合いがやや異なることに注意が必要である。

図表 3-12 酒田市内における消費単価（記述統計）

(A) ツアーパックの場合		(単位:千円)			
	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
宿泊代	109	1.79	3.29	0	12.00
交通費	109	0.43	1.37	0	10.00
飲食費（昼）	109	0.65	1.53	0	11.25
飲食費（夜）	109	0.56	1.26	0	5.50
買物代	109	0.72	1.29	0	6.50
入場料・拝観料	109	0.33	0.65	0	3.00
その他（体験費用等）	109	0.11	0.63	0	5.75

(B) ツアーパックでない場合		(単位:千円)			
	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
宿泊代	193	2.26	3.95	0	17.25
交通費	193	0.68	1.67	0	10.00
飲食費（昼）	193	0.88	1.90	0	23.00
飲食費（夜）	193	0.67	1.42	0	10.00
買物代	193	1.63	3.38	0	30.00
入場料・拝観料	193	0.84	6.30	0	87.50
その他（体験費用等）	193	0.03	0.21	0	2.50

## (C) 酒田市を日帰りで訪問した場合 (単位:千円)

	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
宿泊代	139	0	0	0	0
交通費	139	0.64	1.73	0	10.00
飲食費 (昼)	139	1.03	2.30	0	23.00
飲食費 (夜)	139	0.13	0.64	0	5.00
買物代	139	1.17	1.89	0	10.00
入場料・拝観料	139	0.53	0.82	0	3.00
その他 (体験費用等)	139	0.04	0.21	0	2.00

## (D) 酒田市内に宿泊した場合 (単位:千円)

	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
宿泊代	163	3.87	4.35	0	17.25
交通費	163	0.55	1.42	0	10.00
飲食費 (昼)	163	0.60	1.13	0	11.25
飲食費 (夜)	163	1.06	1.65	0	10.00
買物代	163	1.41	3.45	0	30.00
入場料・拝観料	163	0.77	6.85	0	87.50
その他 (体験費用等)	163	0.08	0.53	0	5.75

宿泊代については、回答された値を同行者数と酒田市の泊数で除して1人・1泊あたりの金額を算出した。それ以外の支出項目については、酒田市の滞在日数(=泊数+1)で除して1人・1日あたりの金額を算出した。

酒田市内における消費単価の記述統計は図表 3-12 の通りである。ツアーパックの場合の消費単価は、パック代金に含まれない追加的な支出額を表しているため、ツアーパックでない場合の消費単価に比べて平均的に低くなっている(その他(体験費用等)を除く)。特に、買物代の差が大きく、ツアーパックでない人の方が平均的に約 9000 円多く支出している。

また、夜の飲食費の平均値は昼の飲食費の平均値より小さい。本来は、夜の飲食費の方が昼の飲食費より高くなるはずであるが、酒田市内に宿泊していない人が含まれるため、平均的には夜の飲食費の方が低くなっている。入場料・拝観料の最大値が大きすぎるので、異常値があると考えられる。

図表 3-13 は、酒田市内における消費単価の分布を箱ひげ図で示している。箱の中に書かれた赤い菱形の記号は中央値を表す。平均値がごく小さい入場料・拝観料とその他(体験費用等)は省略した。

交通費については、ツアーパックであるかそうでないか、または酒田市内に日帰りで訪問

するか宿泊するかに関係なく、中央値が 0 円であり、いずれにおいても大半が市内の交通に対して支出をしていないことが分かる。しかし、ツアーパックの場合よりもツアーパックでない場合の方が高い支出額にやや多く分布している。日帰りか宿泊かに関しては、特に違いが見られない。

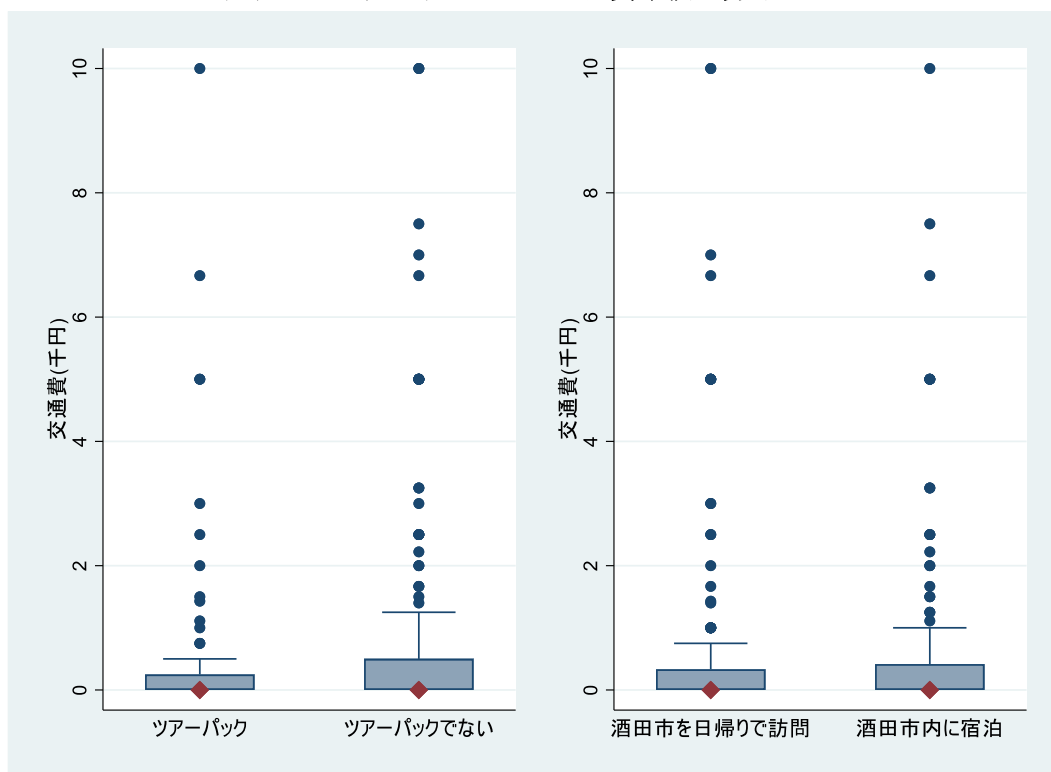
宿泊代については、ツアーパックの場合とそうでない場合のいずれにおいても中央値が 0 円であったが、ツアーパックでない場合の方が高い支出額に多く分布している。市内に宿泊した場合の宿泊代の中央値は 3000 円であり、3 割程度が 5000 円以上支出している。

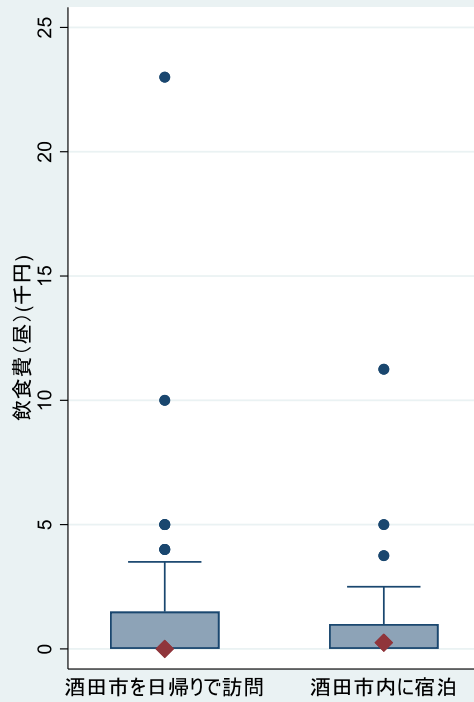
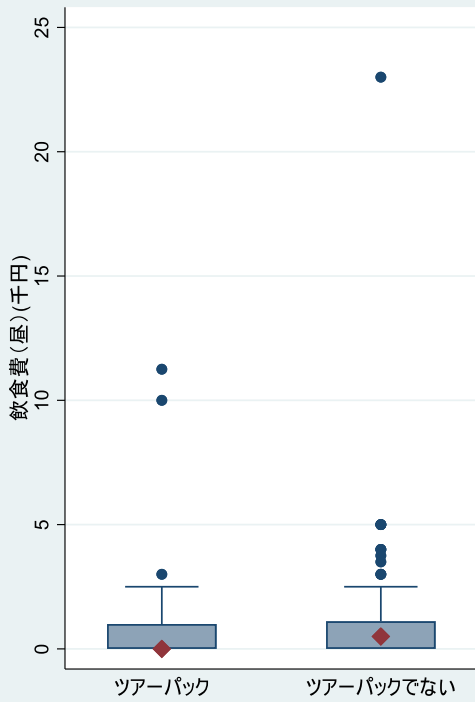
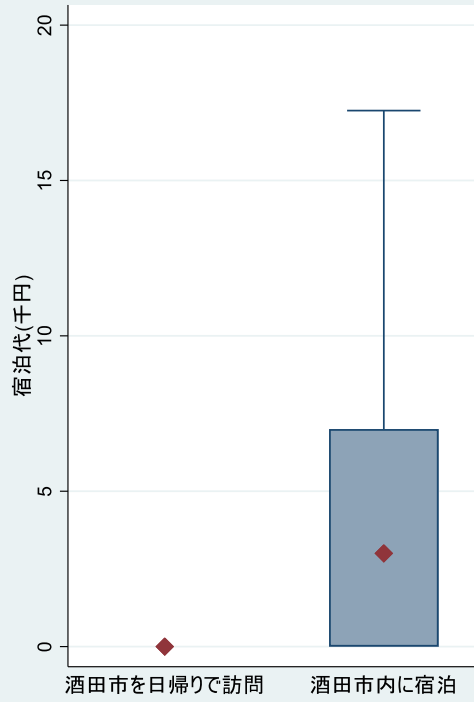
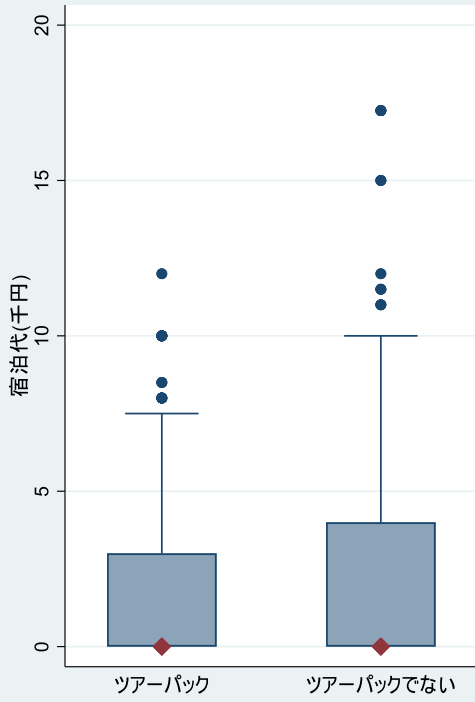
昼の飲食費については、ツアーパックでない場合と市内に宿泊した場合において中央値が正 (0 でない) の値をとっているが、逆にツアーパックである場合と日帰りの場合には半数以上の支出額が 0 円であった。

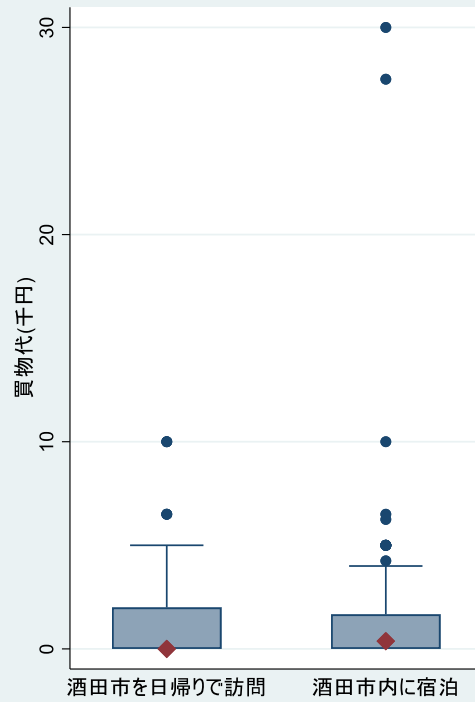
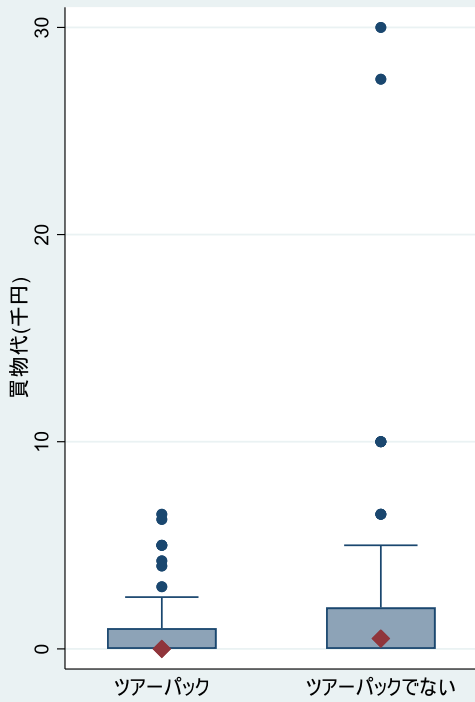
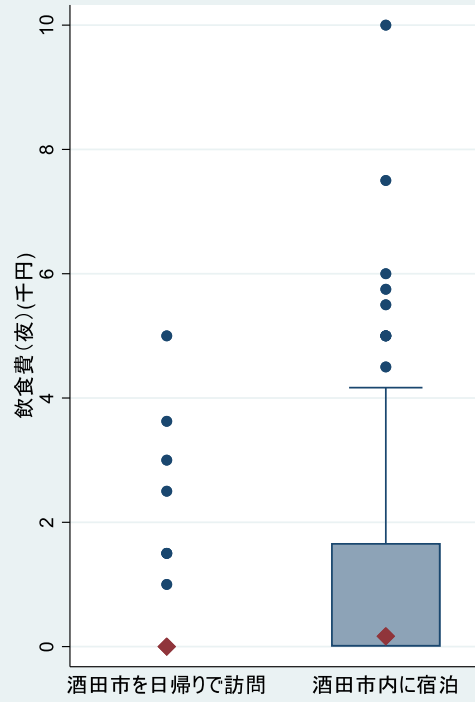
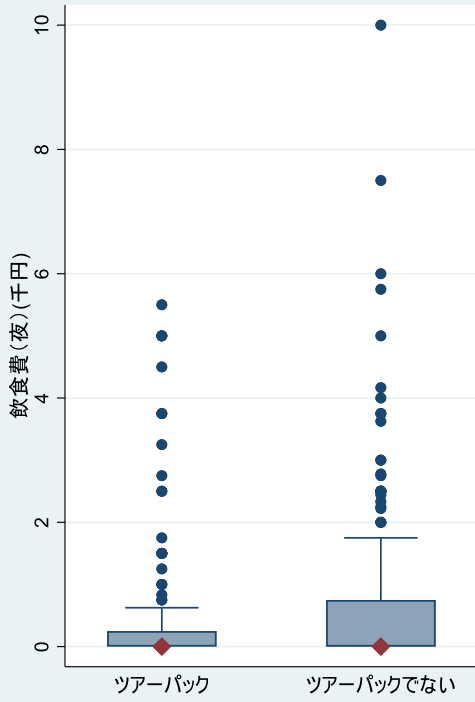
夜の飲食費については、宿泊していない旅行者の回答も含まれていることもあり、酒田市内に宿泊した場合を除いてすべて中央値が 0 円となったが、宿泊をした場合においても中央値が 160 円程度であった。大半が夕食をとっていないというのは考えにくいいため、多くが酒田市外で夕食をとっていることが考えられる。また、ツアーパックである場合よりもそうでない場合の方が高い支出額に多く分布している。

買物代については、ツアーパックでない場合と市内に宿泊した場合において中央値が正の値をとっているが、逆にツアーパックである場合と日帰りの場合には半数以上の支出額が 0 円であった。いずれの場合においても、一部を除いて支出額は 10000 円を下回った。

図表 3-13 酒田市内における消費単価の分布





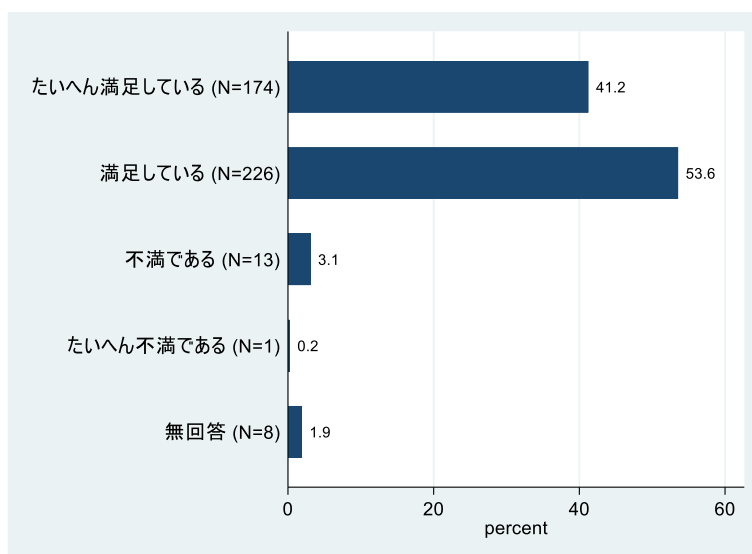


### 3. 4 観光に対する評価

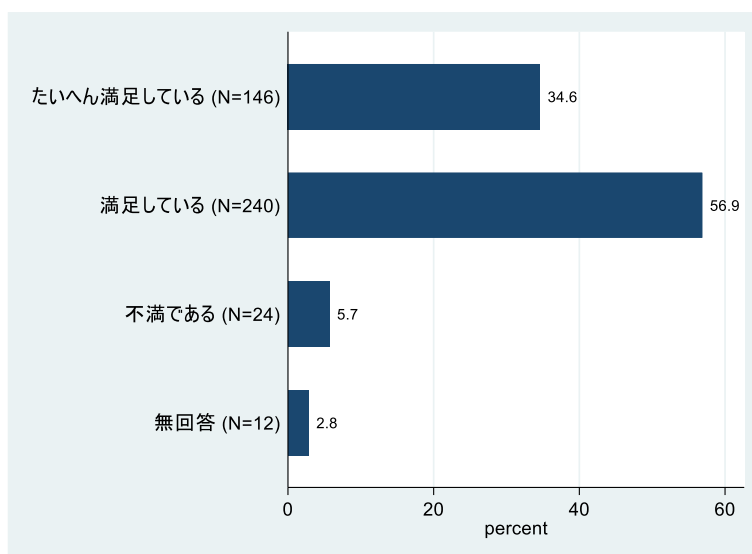
#### ■満足度

旅行全体と酒田市に対する満足度は、それぞれ図表 3-14 と 3-15 の通りである。「たいへん満足している」と「満足している」を合わせれば、旅行全体に対しても、酒田市に対しても、9割超の人がどちらかという満足していることが分かる。

図表 3-14 旅行全体に対する満足度



図表 3-15 酒田市に対する満足度





## ■市の魅力

図表 3-16 は、回答者が酒田市のどの点に魅力を感じたかを示している（複数回答）。名所・旧跡、自然・風景、飲食、買物（お土産・名産品など）、美術館・博物館に魅力を感じている人が多い。

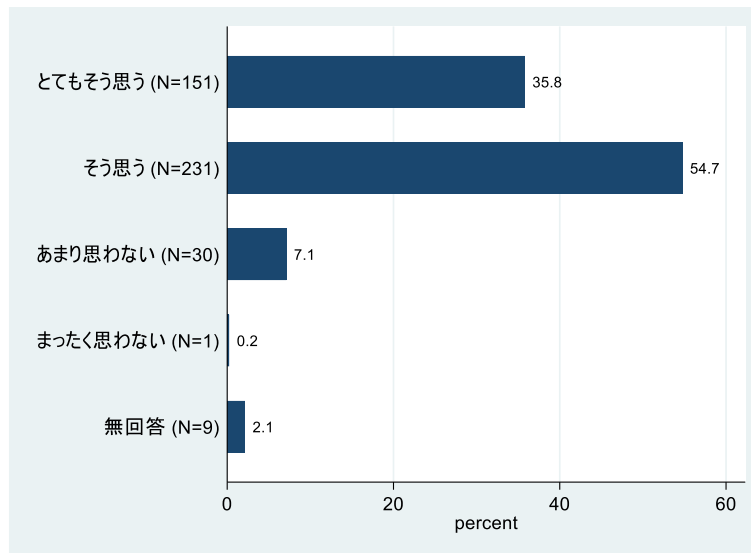
図表 3-16 酒田市の魅力

	回答数 (のべ)
名所・旧跡	212
自然・風景	185
伝統文化	85
美術館・博物館	96
宿泊	73
街並み	73
街の清潔さ	46
飲食	184
買物(お土産・名産品など)	120
観光案内所での情報提供	49
公共交通機関	4
交通状況(道路の渋滞等)	6
ガイドなど出会った人	37
その他	20

## ■再訪意思

酒田市を再び観光で訪れたいと思うかどうかについては、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせれば、約9割の人が再訪の意思があることが分かる（図表 3-17）。

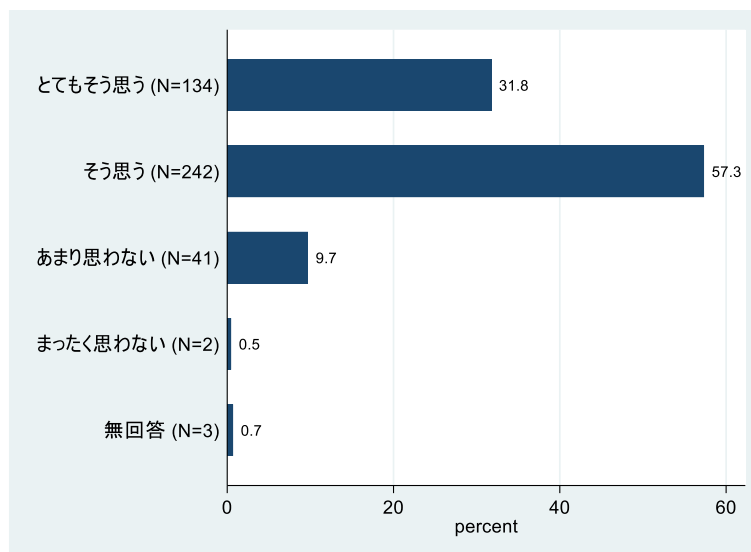
図表 3-17 酒田市への再訪意思



## ■推薦

酒田市への観光を親しい友人に勧めたいと思うかどうかについて、図表 3-18 に示した。「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせれば、約9割の人が勧めたいと思っており、酒田市に対する評価は総じて高いと言える。

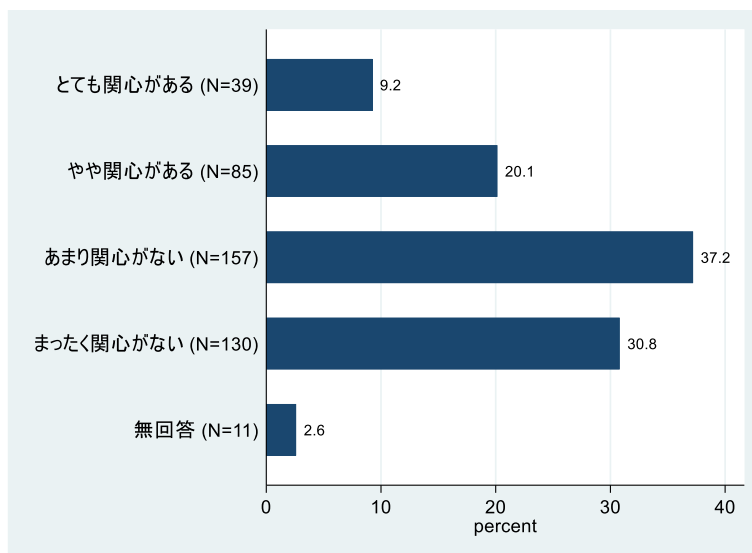
図表 3-18 酒田市観光の推薦



### ■移住への関心

一方、酒田市や庄内地域への移住に対して関心があると回答しているのは約 3 割にとどまる（図表 3-19）。酒田市に対する観光地としての評価は高いものの、移住については消極的であると言える。

図表 3-19 酒田市・庄内地域への移住に対する関心



## 4 観光地間の移動に関する分析

本章では、旅行者がどのような訪問ルートをとって観光地を訪れているか、またさらには旅行者の属性によって訪問ルートを選択に傾向の違いがあるかを見ていく。分析にあたっては、各回答者が訪れた観光地とそれらを訪れた順番のデータを基に訪問ルートを再現し、それを一般にグラフと呼ばれるネットワーク構造の形式で図示することによって、視覚的に傾向をとらえる方法をとる。

### 4. 1 旅行者の訪問傾向・訪問地点の数

はじめに、全回答者が観光地を移動した経路を表したネットワークを図表 4-1 に示す。図表中にある各点は観光地を表しており、エリアごとに地理関係と図表の見やすさを考慮しながら配置してある。さらに、観光地をエリアごとにまとめ、エリア間の移動経路として表したものを図表 4-2 に示す。

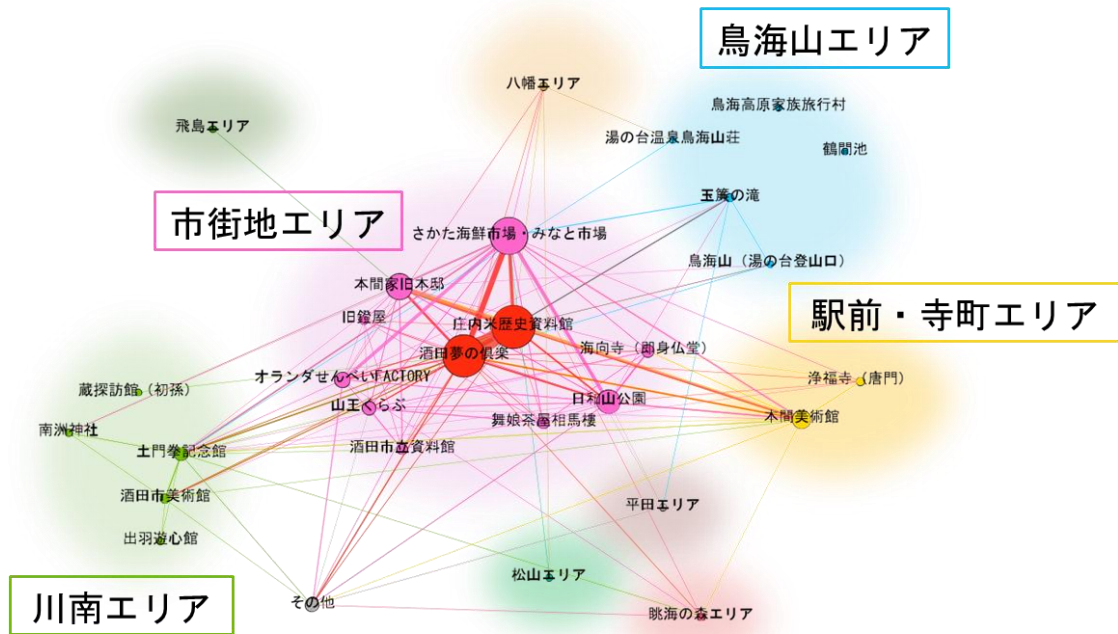
任意の 2 地点の間に引かれる線分（以下、「辺」）はその 2 地点のどちらか一方を始点とし他方を終点とする（ほかの地点を経由しない）移動を表す。つまり、たとえば 1 か所目に A、2 か所目に B、3 か所目に C を訪れる訪問ルートは、グラフ上には A と B を表す 2 点間および B と C を表す 2 点間のみに辺を記すことで表現される。各辺はそこを移動した回答者の数に比例して太く、また各点はその点を終点とした移動の合計に比例して大きく表示してある。平たく言えば、各辺の太さはそこを通った回答者の数、各点の大きさはそこを訪れた回答者の数を反映している。さらに各点の色はエリアごとに統一（山居倉庫に位置する酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館を表す 2 点のみ同じ市街地エリアの点とは異なる色を使用）し、各辺の色は始点と同じ色とした<sup>1</sup>。

図表 4-1 からはまず、訪問数の多い観光地が市街地に集中していることが見てとれる。中でも山居倉庫（酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館）へ訪問する回答者の割合（以下、訪問割合）が最も高く、また山居倉庫とさかた海鮮市場・みなと市場、本間家旧本邸、本間美術館、日和山公園の間の移動が特に多い。また、これらの代表的な観光地のうち、さかた海鮮市場・みなと市場、本間家旧本邸、山王くらぶのそれぞれと酒田夢の倶楽の間の移動が特に多いことから、これまでの調査結果と同様、山居倉庫が酒田市内の旅行においてハブとしての役割を担っていることが考えられる。昨年度の調査結果で見られた山王くらぶへの訪問の増加は今回では見られず、一昨年度に近い状況となった。市街地エリア以外にも目を向けると、川南エリアでは土門拳記念館と酒田市美術館、駅前・寺町エリアでは本間美術館、鳥海山エリアでは玉簾の滝と鳥海山（湯の台登山口）に他エリアからの移動経路が集中しており、こ

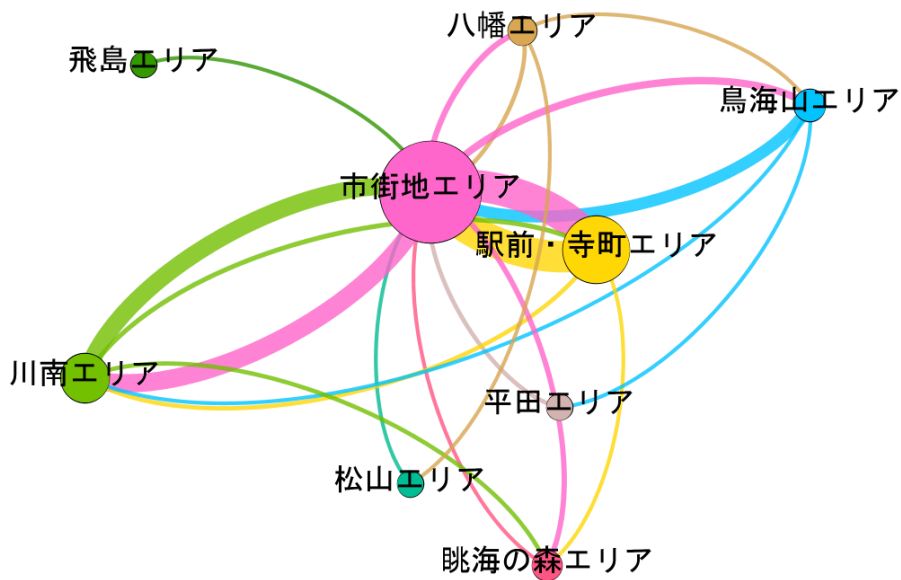
---

<sup>1</sup> 2 点の間にはどちらを始点とするかで区別された（場合によって色も異なる）2 本の辺が存在しうるが、それらを分けて描き表すことによって表示が煩雑となるため、2 点を通る直線上に両者を重ねて表示することとした。しかし、通った回答者の数によって辺の太さに差を設けてあるため、数が大きい辺の方が強調されていることに変わりはない。

図表 4-1 全回答者の移動経路ネットワーク（地点間）



図表 4-2 全回答者の移動経路ネットワーク（エリア間）



れらが各エリアの玄関口となっていることが分かる。しかし、鳥海高原家族旅行村と鶴間池への訪問が観測されず、また他の鳥海山エリアの地点への訪問割合も少なくなっている点を考慮すると、やはり鳥海山エリアへの訪問への訪問が縮小している印象を受ける。エリア単位での移動を示す図表 4-2 を見ても、市街地エリアー駅前・寺町エリア間、そして市街地エリアー川南エリア間の移動が特に多く、それらに次いで鳥海山エリアの訪問割合も高い

ことが分かる。

図表 4-3 は、回答者が酒田市内で訪問した地点数の分布を表すヒストグラムである。分布は「3 か所」を最頻値とした単峰型の形状であり、2~4 箇所を訪問した訪問者が全体の半数以上を占めているが、その一方で 7 か所以上の地点を訪れている割合が 1 割を超えている。その結果として、平均値は 3.42 と最頻値よりやや大きい数値となった。昨年度の調査では訪問地点数平均が 3.80 という結果（有効回答者数 384 名）であり、Welch の t 検定<sup>2</sup>を実施したところ今年度は昨年度よりも有意に小さいことが分かった。移動経路ネットワークの傾向を比較しても、全体における訪問傾向に関しては今年度の方が市街地エリア、駅前・寺町エリア以外の地点への訪問割合が低いことが見てとれる。

#### 4. 2 年齢別の訪問傾向・訪問地点の数

図表 4-4 では回答者の年齢別の訪問地点数の平均値を示す。10 歳ごとの区分ではサンプル数が小さいものもあるため、基本的には 20 歳ごとの区分を採用したが、アンケートにおいて「10 歳未満」と「10 歳代」はごく少数であることから、それらを「20 歳代」の該当者とまとめて「0~29 歳」のグループとした。結果によると、訪問地点数は 50~69 歳が最も大きく、また一方で 0~29 歳が最も小さい。Welch の t 検定によって平均の差の検定を行うと、0~29 歳の訪問地点数の平均は 50~69 歳のそれよりも有意に低いことと判定される。この結果から、各年齢区分によって世帯年収の偏りが存在しないと仮定すれば、酒田市内には若年層の興味を引くような観光要素が不足している可能性が考えられる。

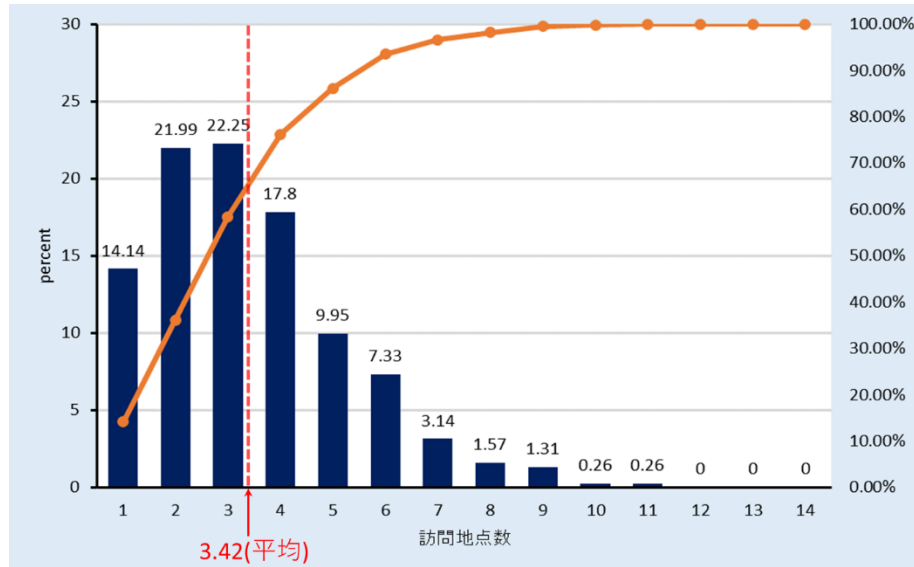
年齢別の移動経路ネットワークを図表 4-5 に示す。図表 4-1 や図表 4-2 と同じく、各グラフにおける辺の太さはそこを移動する回答者の数を表すが、区分によってサンプルサイズの差がある点に配慮し、各区分の総移動数が 100 になるように基準化して辺の太さを調整した<sup>3</sup>。そのため、サンプル数が少ない区分においては辺の太さの対比がより極端に表れる傾向にある点を注意されたい。各点の大きさについては、まず訪問割合が最も高い地点を示す点の大きさを区分間で統一し、そこを基準として区分ごとに訪問割合に応じて各点の大きさを調整した。

0~29 歳から 50~69 歳にかけて、高い年齢区分になるほど移動のパターンが多様になっていくように見えるが、これは 0~29 歳のサンプル数が少なく 50~69 歳のサンプル数が多い（サンプル数が多いほど多様になりがちである）ことが一つの原因として考えられるため、年齢との関連があるものと断定するのは難しい。同様に、0~29 歳から 50~69 歳まで年齢区分が上がるごとに辺が細くなっているような場合についても、サンプル数が多くなるほど多様になり各辺が細く均質化していくことが原因である可能性があり、年齢

<sup>2</sup> Welch (1947)を参照。検定に際しては、有意水準を 5%とした両側での検定を行った。

<sup>3</sup> 厳密には、観光地  $i$  を始点、観光地  $j$  を終点とする辺  $ij$  の移動を行った回答者の数を  $n_{ij}$  としたとき、各辺  $ij$  について  $n_{ij}/(\sum_{k,l:k \neq l} n_{kl})$  で表される割合の大きさに応じて辺の太さを調整した。

図表 4-3 訪問地点数の分布



図表 4-4 年齢別の訪問地点数<sup>4</sup>

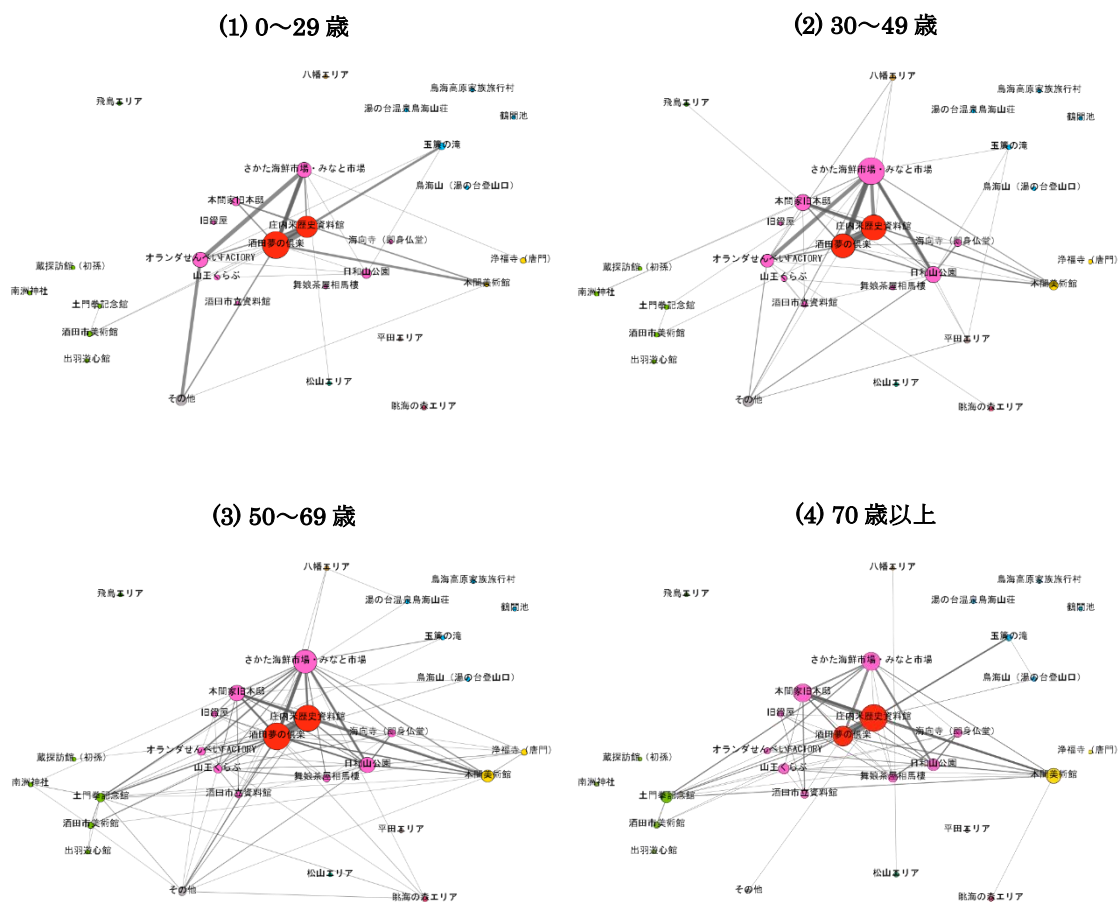
年齢	該当者数	訪問地点数平均
0歳～29歳	40	2.65
30歳～49歳	70	3.20
50歳～69歳	213	3.48
70歳以上	58	3.45
不明	3	3.00

との関連があることを前提に議論を進めることはできない。以下では、上記の点に留意しながら各グラフの特徴をとらえていく。

0～29 歳においては、山居倉庫に加えさかた海鮮市場・みなと市場、オランダせんべい FACTORY を中心とした移動の傾向が見受けられる。また、土門拳記念館、山王くらぶへの訪問が少ない点も特徴的である。30～49 歳においては、さかた海鮮市場・みなと市場、日 和山公園への訪問割合が他のどの年齢区分よりも多い。酒田夢の倶楽には太い（移動割合が 高い）辺が比較的集中しているにも関わらず、点がそれに見合わない大きさで表示されて いる。これは、移動経路ネットワークの作成に際して市内の別地点からの訪問を集計してい るために、各回答者が初めの（市外からの）訪問はグラフに反映されないことが原因である と考えられる。つまり、30～49 歳は他の年齢区分と比べて酒田夢の倶楽を最初の訪問地点 としている傾向が強い可能性がある。50～69 歳においては、主要でない地点への訪問も多 いと見られるが、年齢区分の特徴によるものか先述したサンプル数の違いによるものかの

<sup>4</sup> 図表 4-4 に記された「該当者数」は、アンケートにおいて酒田市内の移動経路を問う質問に対し有効回答を行った回 答者のみを区分ごとに数えたものであり、3 章で示された集計結果とは必ずしも一致しない。また、これ以降の同様の 図表における該当者数についても同様である。

図表 4-5 年齢別の移動経路ネットワーク



判別は難しい。70 歳以上については、サンプル数が少ないことが原因とも考えられるが、川南エリア、鳥海山エリアへの訪問割合が低い点の一つの特徴とも言える。

全体的に見てみると、年齢が上がるにつれて土門拳記念館の訪問割合が高くなることが見て取れ、またわずかではあるが本間美術館、山王くらぶ、本間家旧本邸にも同様の傾向がうかがえる。また、30~49 歳と 50~69 歳は八幡エリアへ訪問する割合がやや高い。

本節で行った年齢での分類は、あくまで回答者の年齢のみによって分類したものであり、各回答者における同行者の有無や同行者の年齢構成については考慮外としている。そこで次節においては、同行者との間柄と年齢構成によってタイプを絞り、それぞれの訪問傾向について比較していくことにする。

4. 3 「家族」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数

ここでは、「家族」と同行した旅行者に焦点を当て、世代構成別での訪問傾向・訪問地点の数を見ていく。細かな特徴によって分類されることから、各区分に属する回答者の均質化が期待される一方、各区分の該当者数 (サンプルサイズ) が小さくなってしまったため、得ら



れる結果に対する信憑性が比較的乏しくなる点には注意が必要である。

「家族」グループにおける世代構成別の訪問地点数の平均値を図表 4-6 に示す。「子ども」を含む区分は 0～19 歳、「成年」を含む区分は 20～59 歳、「老年」を含む区分は 60 歳以上の同行者（回答者自身を含む）がいる場合を指す。子ども+老年、子どものみの 2 区分については、該当者数が 0 であったために図表では割愛した。訪問地点数の平均が最大となるのは子ども+成年+老年の区分であり、最小となるのは子ども+成年の区分であった。老年を含む区分ほど訪問地点数が増加している印象を受けるが、両区分のサンプル数が極端に少ないため、この結果がそのような実態を表しているとは断定することはできない。実際、4.2 節と同様に平均の差の検定を行ったところ、いかなる 2 つの区分の間においても有意な差は検出されなかった。

「家族」グループにおける世代構成別の移動経路ネットワークを図表 4-7 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。子ども+成年+老年の区分は先述の通りサンプル数が非常に少ないため、議論するには値しない。子ども+成年の区分も十分なサンプル数とは言えないが、山居倉庫と海鮮市場を中心に訪問している様子が確認された。成年+老年、成年のみ、そして老年のみの 3 区分については、いずれも市街地を中心とした移動傾向は変わらないものの、成年+老年の区分では本間美術館、酒田市美術館、土門拳記念館への移動頻度が高いこと、成年のみの区分では市街地エリアと駅前・寺町エリアでの移動が中心的事であること、老年のみの区分では本間家旧本邸への訪問割合が高いことなどそれぞれ特徴が見られた。

#### 4. 4 「友人・知人」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数

ここでは、「友人・知人」と同行した旅行者に焦点を当て、世代構成別での訪問傾向・訪問地点の数を見ていく。「友人・知人」グループにおける世代構成別の訪問地点数の平均値を図表 4-8 に示す。「子ども」、「成年」、「老年」の表記の意味は前節と同様である。「子ども」を含むすべての区分（子ども+成年+老年、子ども+成年、子ども+老年、子どものみの 4 区分）の該当者数は 0 であったため、図表では割愛した。訪問地点数の平均が最大となるのは老年のみの区分であり、最小となるのは成年のみの区分であった。成年のみで構成された友人・知人グループよりも老年のみで構成された友人・知人グループの方が訪問地点数が多いという結果となったが、4.2 節と同様に平均の差の検定を行ったところ、該当者の存在した 3 つの区分のうち、どの 2 つの区分の間にも有意な差は確認されなかった。

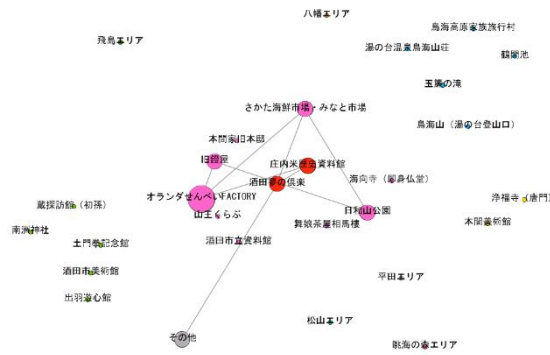
「友人・知人」グループにおける世代構成別の移動経路ネットワークを図表 4-9 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。成年+老年の区分はサンプル数が少ないことも影響してか、市街地エリアを中心とする限定的な移動傾向が見られた。成年のみの区分は八幡エリア、平田エリアへの訪問が相対的に多く、老年のみの区分は本間家旧本邸、本間美術館に訪れている点がそれぞれ特徴的である。

図表 4-6 「家族」グループ世代構成別の訪問地点数

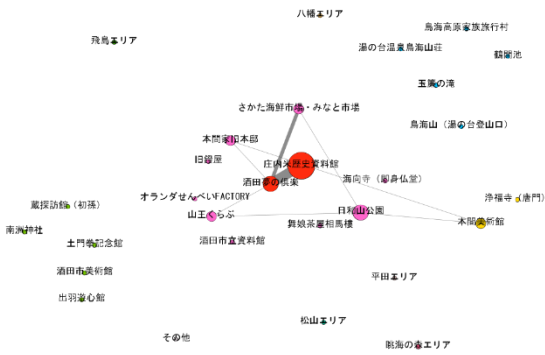
「家族」年齢構成	該当者数	訪問地点数平均
子ども+成年+老年	2	5.00
子ども+成年	8	2.50
成年+老年	19	3.37
成年のみ	80	3.28
老年のみ	84	3.40
不明	3	3.00

図表 4-7 「家族」グループ世代構成別の移動経路ネットワーク

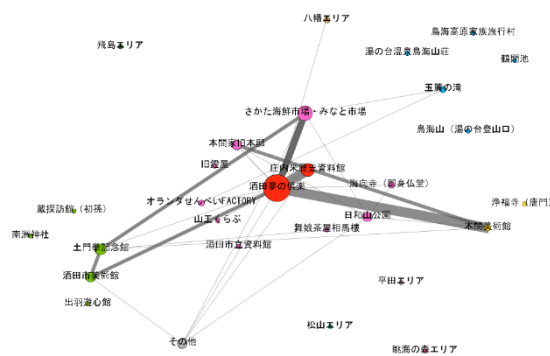
(1) 子ども+成年+老年



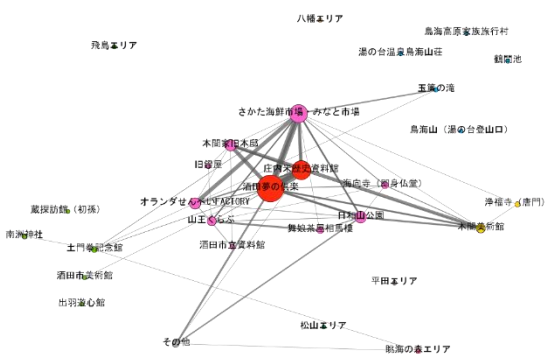
(2) 子ども+成年



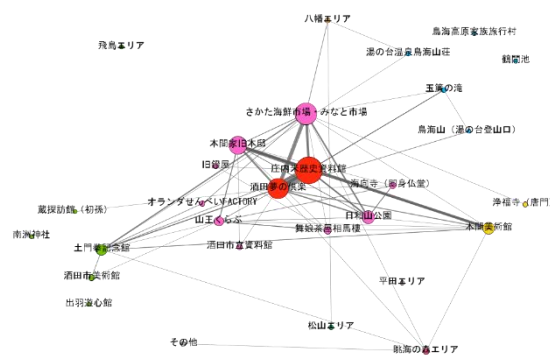
(3) 成年+老年



(4) 成年のみ



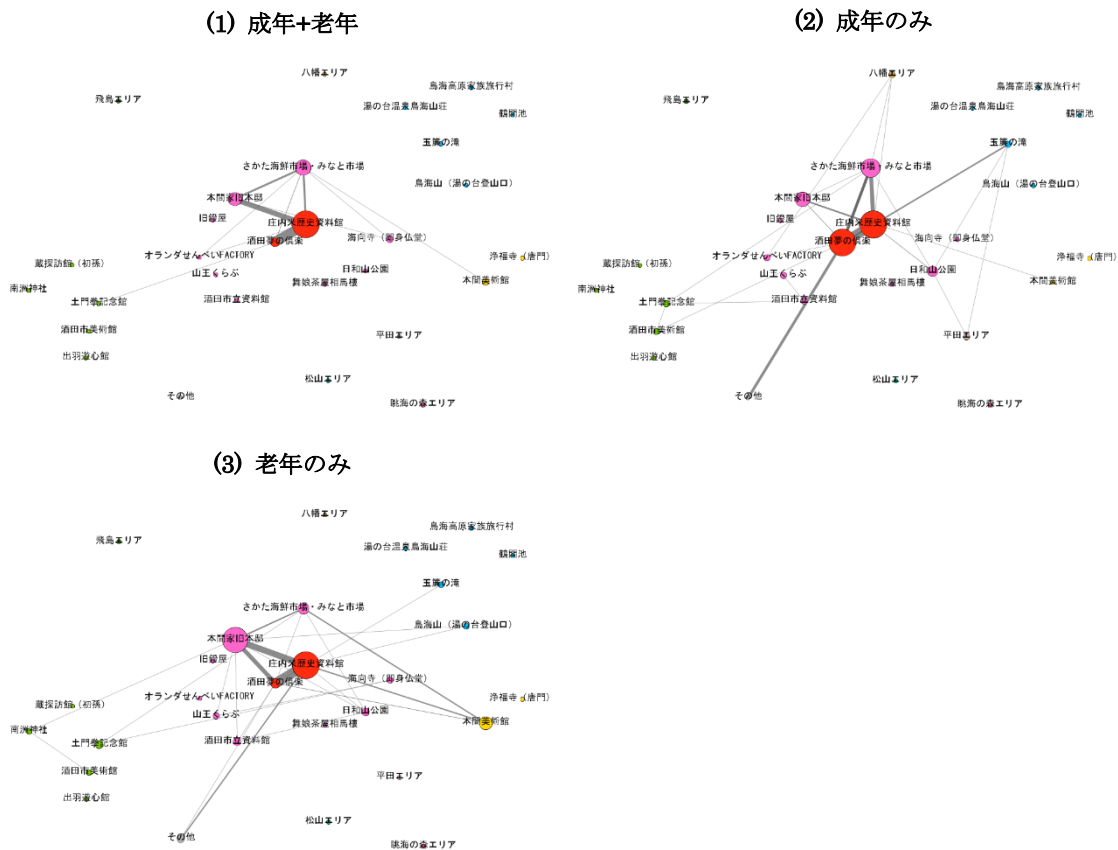
(5) 老年のみ



図表 4-8 「友人・知人」グループ世代構成別の訪問地点数

「友人・知人」年齢構成	該当者数	訪問地点数平均
成年+老年	12	2.92
成年のみ	20	2.90
老年のみ	23	3.22
不明	0	—

図表 4-9 「友人・知人」グループ世代構成別の移動経路ネットワーク



#### 4. 5 世帯年収別の訪問傾向・訪問地点の数

世帯年収別の訪問地点数の平均値を図表 4-10 に示す。基本的には 200 万ごとの区分を採用したが、区分ごとサンプル数の大きさにばらつきがあったため、「なし」（無収入）と「1～299 万円」をまとめて「0～299 万円」とし、「700 万～899 万円」、「900 万～1,099 万円」そして「1,100 万円～」をまとめて「700 万円以上」とした。

訪問地点数の平均値が最大となるのは 300～499 万円の区分、最小となるのは 0～299 万円の区分であった。平均の訪問地点数は金額に対して単調な増加傾向があるとは言えないが、高所得に分類される層において少ないという傾向は昨年度における結果と同様である。

図表 4-10 世帯年収別の訪問地点数

世帯年収	該当者数	訪問地点数平均
0～299万円	63	3.03
300万～499万円	97	3.72
500万～699万円	71	3.42
700万円以上	91	3.57
不明	14	2.64

Welch の t 検定によると、0～299 万円の区分が 300 万～499 万円、700 万円以上の区分と比べて有意に小さいと分かった。

世帯年収別の移動経路ネットワークを図表 4-11 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。0～299 万円と他の区分とでは、移動傾向に違いがあるように見受けられる。0～299 万円以外の区分同士はあまり違いがないように見えるが、移動経路を見ると、300 万～499 万円の区分においては鳥海山エリアへの訪問する傾向がやや強く、700 万円以上の区分では川南エリアと眺海の森エリアとの間など大きな移動が目立つ。

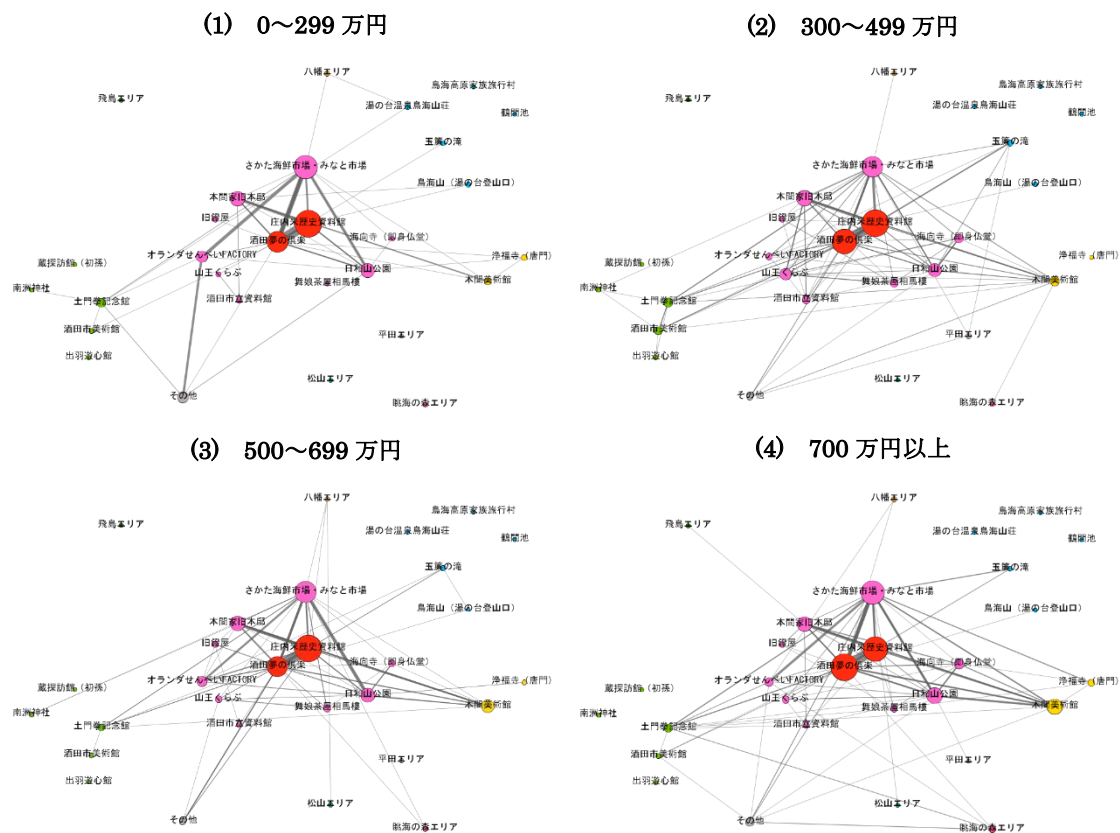
#### 4. 6 同行グループ構成別の訪問傾向・訪問地点の数

ここでは、同行者の有無や同行したグループの人数、性別構成、年齢、間柄などによってタイプに分け、それぞれの訪問地点の数および訪問ルートの傾向について見ていく。

まず、各タイプの訪問地点数の平均を図表 4-12 に示す。表中にある「子連れ家族」は 19 歳以下の男性または女性と 20 歳以上の男性または女性を含む家族のみで構成されたグループを意味する。「不明」の該当者数が多いのは、アンケートでの回答に際して、1 人での旅行かとの質問（問 4）に対して「いいえ」と答えながら、同行者の構成についての質問（問 5）が空欄であるケースが多数発生したためである。1 人（同行者なし）での旅行においては、成人女性と成人男性との間に大きな差が見られたが、Welch の t 検定において両者の有意性は確認されなかった。2 人以上のグループ（同行者あり）の旅行においても、成人男性のみで構成された場合と成人女性のみで構成された場合とで平均値にある程度の差が見られたものの、検定によって有意性を確認することはできなかった。ちなみに、これらの結果は、昨年度と同じである。全区分を比較すると、訪問地点数の平均値が最も大きいのは「1 人：成人女性」であり、最も小さいのは「2 人以上：成人男性のみ」であり、これらの間に限っては有意な差が検出された。

また、1 人の場合と 2 人以上の場合を比較してみると、男女ともに（混合を含め）複数で旅行するよりも 1 人で旅行した方が訪問地点数の平均が大きい。さらに、2 人以上の成人男性のみからなるグループは異なる構成のグループと比べると小さいことから、男性は女性とともに酒田市内を旅行することによって訪問地点を増やす傾向が示唆される。

図表 4-11 世帯年収別の移動経路ネットワーク



図表 4-12 同行グループ構成別の訪問地点数

同行グループ構成	該当者数	訪問地点数平均
1人:成人男性	55	3.49
1人:成人女性	20	4.40
2人以上:成人男性のみ	24	3.00
2人以上:成人女性のみ	20	3.45
2人以上:成人男女混合	140	3.49
子ども連れ家族	9	3.22
不明	116	3.22

図表 4-13 では、同行グループ構成別の移動経路ネットワークを示す。各辺の太さおよび各点の大きさに対しては図表 4-5 と同様の調整をしてある。

まず、1人で訪問した成人男性と成人女性の特徴については以下の通りである。1人で訪問した成人男性は、日和山公園、酒田市立資料館への訪問割合の多さが他の区分と比べて目立つものの、限定的な移動傾向が見られた。一方、1人で訪問した成人女性は、本間家旧本邸と本間美術館の間の移動が多く見られ（点の位置関係で庄内米歴史資料館を経由しているように見えるがデータを確認すると両者間の直接的な移動が多いことが分かる）、両者をセットで訪問する傾向が明確に見て取れる。



子ども連れ家族のタイプでは、山居倉庫と本間美術館、海鮮市場が比較的太い辺で示されるのみとなり、市街地エリア内のみでの移動がほとんどである。

#### 4. 7 利用交通手段別の訪問傾向・訪問地点の数

利用交通手段別の訪問地点数の平均値を図表 4-14 に示す。各区分の分類は 3 章で用いた基準に従った。

平均での訪問地点数が最も多いのは、徒歩であった。昨年度の調査においては路線バスが平均訪問地点数最大となったが、いずれにおいても訪問地点を追加する際に生じる費用（限界費用）が比較的低いほど、訪問地点が多くなるという傾向を裏付ける結果となった。次点となった自転車も同様の結果であると言える。一方で、タクシー・ハイヤーが平均訪問地点数の最下位となったのは、逆に訪問地点の追加にかかる費用が比較的高いことが原因として考えられる。任意の 2 区分の平均値に対して Welch の t 検定を行うと、徒歩はサンプル数が少ないために、次点の自転車の方がタクシー・ハイヤー、自家用車、レンタカー、路線バスとの間に有意な差があることが認められた。

利用交通手段別の移動経路ネットワークを図表 4-15 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。平均訪問地点数が最大となった徒歩においては、市街地エリア内の地点、特に山居倉庫（酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館）、本間家旧本邸、日和山公園、酒田市立資料館、本間美術館に訪問割合が集中している。例外は若干あるものの、それらを除けば行動範囲は市街地エリア、駅前・寺町エリアに限られていることが見て取れる。この結果が長距離移動を困難とする徒歩の特徴が影響したものと考えられるが、サンプル数が少ないことが起因している可能性もあるため断定はできない。自転車においては、最上川を越えて川南エリアを訪問する割合も増加する。市街地エリア内でも、本間家旧本邸やさかた海鮮市場・みなと市場や日和山公園への訪問割合が高く、訪問地の分散化が見受けられる。路線バスにおいては、市街地エリア、駅前・寺町エリア、川南エリア内での移動に限定されてはいるものの、比較的長距離な移動が多く見られる。観光バス・貸切バスにおいては、先述した通りツアー内容によって行動範囲が狭められるため、山居倉庫の 2 地点、さかた海鮮市場・みなと市場、舞妓茶屋相馬楼、海向寺、本間美術館への移動が目立つ。レンタカーと自家用車または社用・公用車は、移動能力自体に大きな違いがないと考えられるが、結果として訪問傾向に大きな違いが得られた。レンタカーにおいては、主要な観光地に訪問地点が限られており、特に市街地エリア内の移動に集中していることが分かる。一方、自家用車においては市街地エリアの山居倉庫と海鮮市場を除く地点の訪問割合が相対的に小さい分、市街地エリア以外のエリアへの多様な訪問傾向が見受けられる。このような差異は昨年度においても同様に見られたものであり、調査結果の頑健性を示す形となった。最後に、タクシー・ハイヤーにおいては、希望の地点には難なく移動できる便利さから市街地エリア、駅前・寺町エリア、川南エリアの間の移動が活発であるが、金銭的費用が高いために長距離移動を要する他のエリアへの訪問は見られなかった。

図表 4-14 利用交通手段別の訪問地点数

市内の交通手段	該当者数	訪問地点数平均
徒歩	7	4.29
自転車	64	4.22
路線バス	20	3.15
観光バス・貸切バス	43	3.47
レンタカー	51	3.08
自家用車、社用・公用車	173	3.28
タクシー・ハイヤー	25	3.00
不明	1	1.00

#### 4. 8 最初に訪問する地点・最後に訪問する地点

ここまでは酒田市内での訪問ルートを見てきたが、本章の最後に酒田市への訪問に際して初めに訪問する地点、あるいは酒田市への訪問を終える際最後に訪問する地点にも注目しておきたい。

図表 4-16 は、回答者が各地点を酒田市内観光における最初の訪問地として選んだ割合を表している。酒田市外あるいは居住地から最初の訪問地点への移動は、左上の点から各地点への有向辺（矢印）で表現し、各地点の大きさおよび各地点に至る有向辺はその地点に最初に訪れた回答者の割合を表す。辺の重なりによって見にくくなることを考慮し、各辺には辺の終点（最初の訪問地点）と同じ色をつけた。

一見して明らかなように、最初の訪問地点として酒田夢の倶楽を選んだ回答者の割合が圧倒的に多い。この結果によれば、酒田市を訪れた旅行者の大多数はまず山居倉庫を訪れてから、他の訪問地点に移動していく傾向がうかがえ、山居倉庫がまさしく酒田市観光におけるハブとしての役割を持っていることが分かる。

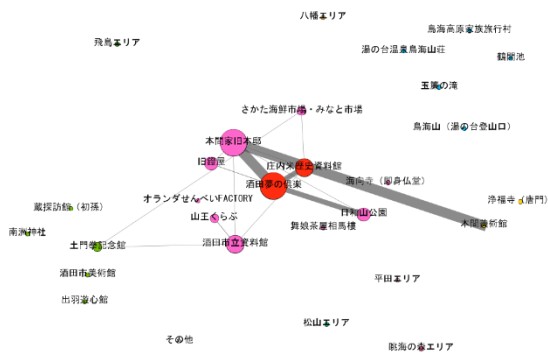
他方、図表 4-17 は、回答者が各地点を酒田市内観光訪問における最後に訪問地として選んだ割合を示す。最後の訪問地点から酒田市外あるいは居住地への移動は、各点から酒田市外あるいは居住地を示す左上の点への有向辺（矢印）で表現し、各地点の大きさおよび各地点に至る有向辺はその地点を最後に訪れた回答者の割合を表す。辺の重なりによって見にくくなることを考慮し、各辺には辺の始点（最後の訪問地点）と同じ色をつけた。

先述した最初の訪問地と比べて、最後に訪問する地点はより分散的である。酒田夢の倶楽は最後の訪問地としても割合が高いが、庄内米歴史資料館、さかた海鮮市場・みなと市場なども高い割合を占めている。これらの共通点を考えると、酒田市訪問の最後に山居倉庫とさかた海鮮市場・みなと市場へは土産物を買いに訪れた可能性が考えられる。これらの次に本間美術館も訪問割合が高いが、これを文化財や芸術品を数多く展示している観光施設を最後に訪問することで、時間を気にすることなく堪能したいと考える旅行者の傾向を示していると考えられる。

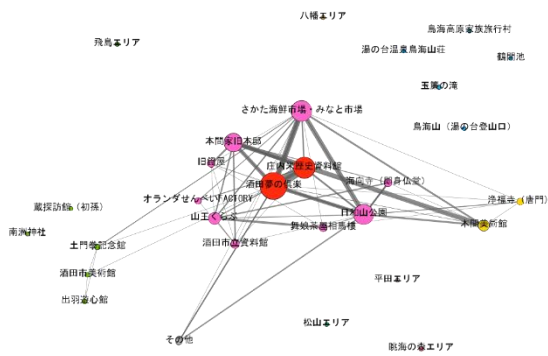


図表 4-15 利用交通手段別の移動経路ネットワーク

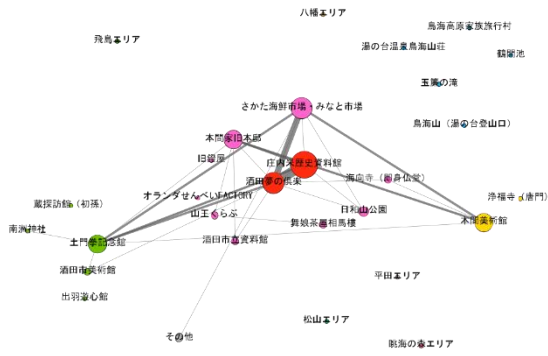
(1) 徒歩



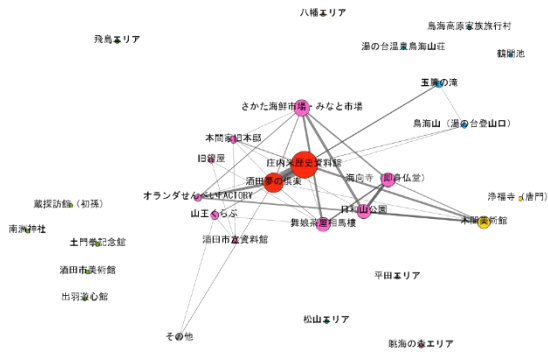
(2) 自転車



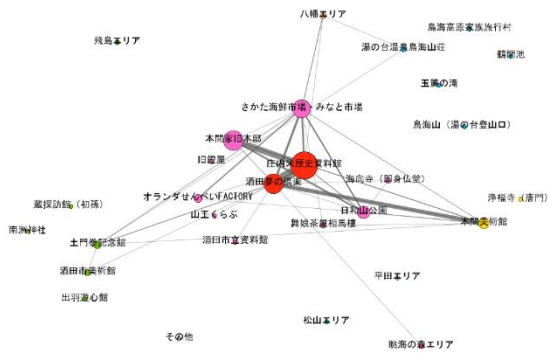
(3) 路線バス



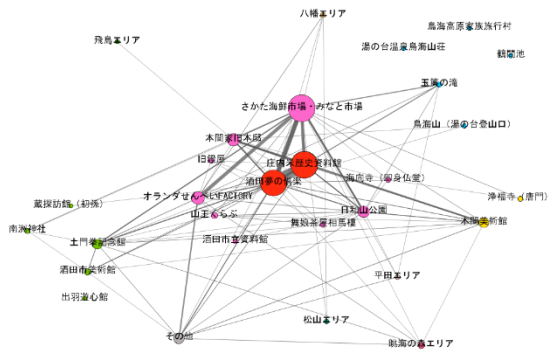
(4) 観光バス・貸切バス



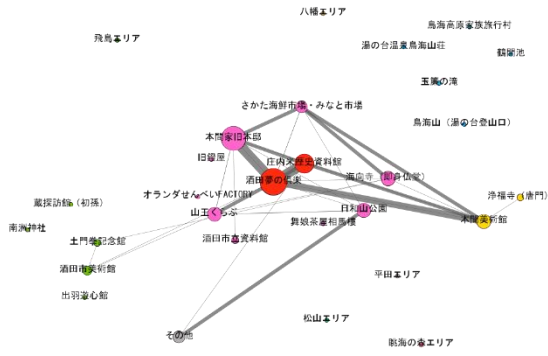
(5) レンタカー



(6) 自家用車または社用車・公用車



(7) タクシー・ハイヤー





## 5 離散選択モデルに基づく回帰分析

本章では、酒田市へ観光に訪れる人々の行動や属性が酒田市への満足度とどのような関係があるのかを、離散選択モデルに基づいて分析する。

### 5.1 モデル

現実の個人の選択は連続的なものよりむしろ離散的なものが多く、本受託研究におけるアンケート調査でも回答者はいくつかの選択肢の中から1つ以上を選択することが求められている。とりわけ、酒田市への旅行の満足度は4段階評価の中から最も自分の気持ちに近い選択肢を選ぶものとなっており、これは順序を持つ離散選択モデルとして表現することができる。本節では、Train (2009) に基づき、モデルの概要を説明する。

個人が旅行から得る効用 $U$ が次のように表されるとする。

$$U = \beta'X + \varepsilon$$

ここで、 $X$ は個人の効用に影響を与える観察可能な要因のベクトル、 $\beta$ はその要因にかかる係数のベクトル、 $\varepsilon$ は個人の効用に影響を与える観察不可能な確率変数である。個人の効用水準は実際に観測することのできない潜在変数であるが、これを用いて離散的な選択を定式化することは可能である。個人の効用水準がある閾値 $v_1$ を上回るならば「たいへん満足している」と回答し、効用水準が $v_1$ を下回るが閾値 $v_2$ を上回るならば「満足している」と回答する。同様に考えると、満足度の選択は次のように表すことができる。

回答 = 「たいへん満足している」 if  $U > v_1$

回答 = 「満足している」 if  $v_1 \geq U > v_2$

回答 = 「不満である」 if  $v_2 \geq U > v_3$

回答 = 「たいへん不満である」 if  $v_3 \geq U$

個人が「たいへん満足している」と回答する確率は

$$\begin{aligned} \Pr(U > v_1) &= \Pr(\beta'X + \varepsilon > v_1) \\ &= \Pr(\varepsilon > v_1 - \beta'X) \\ &= 1 - \Pr(\varepsilon \leq v_1 - \beta'X) \end{aligned}$$

となり、「満足している」と回答する確率は

$$\begin{aligned} \Pr(v_1 \geq U > v_2) &= \Pr(v_1 \geq \beta'X + \varepsilon > v_2) \\ &= \Pr(v_1 - \beta'X \geq \varepsilon > v_2 - \beta'X) \\ &= \Pr(\varepsilon \leq v_1 - \beta'X) - \Pr(\varepsilon \leq v_2 - \beta'X) \end{aligned}$$

となる。したがって、 $\varepsilon$ の分布によって選択確率が決まることになる。

観察不可能な $\varepsilon$ が標準正規分布に従うと想定した場合、このモデルは順序プロビットモデルと呼ばれ、「たいへん満足している」、「満足している」と回答する確率はそれぞれ

$$\Pr(U > v_1) = 1 - \Phi(v_1 - \beta'X)$$

$$\Pr(v_1 \geq U > v_2) = \Phi(v_1 - \beta'X) - \Phi(v_2 - \beta'X)$$

で計算することができる。ここで、 $\Phi(\cdot)$ は標準正規分布関数である。「不満である」、「たいへん不満である」と回答する確率も同様に導出できる。係数 $\beta$ と閾値 $v_1, \dots, v_4$ を最尤法で推定し、その統計的有意性を検定することによって、観察可能な要因 $X$ が満足度に与える影響を調べる。

## 5. 2 変数の説明

被説明変数には酒田市への満足度を用いた。この変数は、「たいへん満足している」と回答している場合には4、「満足している」と回答している場合には3、「不満である」と回答している場合には2、「たいへん不満である」と回答している場合には1をとる。

酒田市を観光した回答者の行動を表す変数として、酒田市内の各エリアに訪問したかどうか、酒田市内のみの観光であったかどうか、酒田市に宿泊したかどうか（酒田市の泊数が正の数であるかどうか）、一人旅であったかどうかを用いた。たとえば、市街地エリア訪問ダミーは、調査票Q9において市街地エリアの観光地のいずれかを訪れたと回答している場合には1、市街地エリアの観光地をまったく訪れていないと回答している場合には0をとるダミー変数である。

また、酒田市における1人・1日あたり支出額も回答者の行動を表す変数として用いた。3.3節で示した、宿泊代、飲食費、買物代、入場料・拝観料、その他（体験費用等）の1人・1日あたりの金額を用いている。ただし、回答者の記入ミス等により1人・1日あたりの金額として高すぎるものは除外した。同様に、3.3節において除外した回答者は本章の分析においても除外した。

回答者の属性を表す変数として、性別、年齢、世帯年収を用いた。性別については、回答者が女性であれば1、男性であれば0をとるダミー変数とした。年齢については回答者の年齢層の中間値を、世帯年収については回答者の年収の幅の中間値をそれぞれ用いた。

すべての変数の記述統計は図表5-1の通りである。酒田市を訪れた人のほとんどが市街地エリアの観光地を訪れているのに対し、それ以外のエリアにはあまり行っていない。また、6割強の人が1回の旅行で酒田市以外の地域にも訪れており、酒田市を観光した人の約半数は日帰り客であることがうかがえる。

ツアーパックを利用して旅行した人は約4割である。3.3節で述べたように、酒田市における1人・1日あたり支出額はツアーパックの場合とそうでない場合で意味合いがやや異なることから、ツアーパックを利用した人とそうでない人でサンプルを分けて推定を行う。

図表 5-1 回帰分析に用いた変数の記述統計

	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
酒田市に対する満足度	399	3.30	0.57	2	4
酒田市内エリア訪問ダミー					
市街地エリア	374	0.94	0.24	0	1
駅前・寺町エリア	374	0.26	0.44	0	1
川南エリア	374	0.15	0.36	0	1
鳥海山エリア	374	0.06	0.24	0	1
八幡エリア	374	0.02	0.14	0	1
眺海の森エリア	374	0.02	0.14	0	1
松山エリア	374	0.00	0.05	0	1
平田エリア	374	0.01	0.10	0	1
飛島エリア	374	0.00	0.05	0	1
ツアーパックの場合(ダミー)	409	0.44	0.50	0	1
酒田市内のみの観光(ダミー)	409	0.36	0.48	0	1
酒田市に宿泊した(ダミー)	374	0.54	0.50	0	1
一人旅(ダミー)	408	0.20	0.40	0	1
1人・1日あたり支出額(千円)					
宿泊代	300	2.10	3.74	0	17.25
飲食費(昼)	300	0.73	1.24	0	11.25
飲食費(夜)	300	0.63	1.37	0	10
買物代	300	1.30	2.85	0	30
入場料・拝観料	300	0.37	0.65	0	3
その他(体験費用等)	300	0.06	0.42	0	5.75
女性(ダミー)	407	0.48	0.50	0	1
年齢(歳)	406	55.47	15.76	5	85
世帯年収(万円)	393	609.16	347.87	0	1200

### 5. 3 分析結果と含意

サンプル全体を用いて、順序プロビットモデルで推定した結果が図表 5-2 に示されている。(1)列は支出額に関する変数を除いた結果、(2)列は(1)列の説明変数群に酒田市における1人・1日あたり支出額を加えた結果である。

図表 5-2 酒田市への満足度に与える影響の推定結果（全体）

	全体	
	(1)	(2)
	酒田市に対する満足度	
酒田市内エリア訪問ダミー		
市街地エリア	0.114 (0.304)	-0.441 (0.382)
駅前・寺町エリア	-0.00531 (0.156)	-0.114 (0.190)
川南エリア	0.211 (0.182)	0.145 (0.195)
鳥海山エリア	-0.109 (0.284)	0.111 (0.306)
八幡エリア	0.183 (0.407)	0.313 (0.518)
眺海の森エリア	-0.799* (0.421)	-0.700 (0.455)
松山エリア	4.790*** (0.288)	5.307*** (0.318)
平田エリア	5.097*** (0.223)	5.106*** (0.223)
飛島エリア	-0.938*** (0.188)	-0.824*** (0.221)
酒田市内のみの観光	-0.150 (0.144)	-0.316* (0.166)
酒田市に宿泊した	0.107 (0.143)	0.0423 (0.197)
一人旅	-0.267 (0.175)	-0.441** (0.206)
1人・1日あたり支出額		
宿泊代		0.0508** (0.0243)
飲食費（昼）		-0.00757 (0.0602)
飲食費（夜）		-0.0353 (0.0553)
買物代		0.136*** (0.0394)
入場料・拝観料		-0.0318 (0.133)
その他（体験費用等）		0.119 (0.174)
サンプルサイズ	333	275
擬似決定係数	0.0351	0.0819

(注)すべてのモデルに、女性ダミー、年齢、世帯年収が含まれている。カッコ内は頑健な標準誤差である。\*\*\*, \*\*, \* はそれぞれ、1%、5%、10%の水準で有意であることを示す。

図表 5-3 酒田市への満足度に与える影響の推定結果（サンプルを分けた場合）

	ツアーパックの場合		ツアーパックでない場合	
	(3)	(4)	(5)	(6)
	酒田市に対する満足度		酒田市に対する満足度	
酒田市内エリア訪問ダミー				
市街地エリア	0.0224 (0.639)	-1.935*** (0.700)	0.242 (0.347)	-0.0908 (0.468)
駅前・寺町エリア	0.144 (0.267)	0.304 (0.306)	-0.129 (0.215)	-0.432* (0.254)
川南エリア	0.0710 (0.368)	0.533 (0.480)	0.260 (0.218)	0.0863 (0.241)
鳥海山エリア	-0.488 (0.428)	-0.199 (0.369)	0.341 (0.400)	0.574 (0.521)
八幡エリア	-	-	0.0744 (0.404)	0.203 (0.535)
眺海の森エリア	-1.138** (0.467)	-1.318** (0.585)	0.277 (0.807)	0.356 (0.912)
松山エリア	5.355*** (0.380)	6.391*** (0.533)	-	-
平田エリア	5.311*** (0.337)	6.373*** (0.374)	5.147*** (0.376)	4.764*** (0.410)
飛島エリア	-	-	-0.946*** (0.247)	-1.017*** (0.293)
酒田市内のみの観光	-0.165 (0.239)	0.0123 (0.305)	-0.196 (0.189)	-0.419* (0.216)
酒田市に宿泊した	0.253 (0.227)	-0.283 (0.323)	0.0130 (0.188)	0.0448 (0.275)
一人旅	-0.349 (0.305)	-0.758** (0.346)	-0.229 (0.217)	-0.431 (0.271)
1人・1日あたり支出額				
宿泊代		0.143*** (0.0541)		0.0432 (0.0313)
飲食費（昼）		0.223** (0.0973)		-0.180* (0.0999)
飲食費（夜）		-0.176 (0.128)		-0.0436 (0.0638)
買物代		0.104 (0.115)		0.159*** (0.0531)
入場料・拝観料		-0.488** (0.234)		0.197 (0.160)
その他（体験費用等）		0.373* (0.210)		-0.436** (0.209)
	135	99	198	176
	0.0638	0.183	0.0396	0.104

(注) すべてのモデルに、女性ダミー、年齢、世帯年収が含まれている。ハイフンで示したのは、共線性のために除外された変数である。カッコ内は頑健な標準誤差である。\*\*\*, \*\*, \* はそれぞれ、1%、5%、10%の水準で有意であることを示す。

(1)列、(2)列の結果によれば、松山エリア訪問ダミー、平田エリア訪問ダミーがともに正で有意であり、このエリアの観光地を訪問した人の満足度が高い。一方で、眺海の森エリア訪問ダミー、飛島エリア訪問ダミーは負で有意となっている。また、支出額を説明変数に加えた(2)列では、酒田市のみ観光した人の満足度が有意に低い。さらに、宿泊と買物に多く支出している人ほど満足度が高いという結果が得られた。高額な宿泊先に泊まり、お土産等を多く購入した人ほど満足しており、このこと自体は望ましいと言えるだろう。

図表 5-3 は、1人・1日あたり支出額の意味合いがツアーパックを利用した人とそうでない人で異なることを考慮し、サンプルを分けて推定した結果である。(4)列から、ツアーパックを利用した人については、宿泊代、昼食代、その他(体験費用等)が正で有意となっており、パック代金に追加してこれらに多くの支出をした人ほど満足度が高い。一方、(6)列から、ツアーパックを利用しなかった人については、昼食代、その他(体験費用等)が負で有意、買物代が正で有意となっている。

また、ツアーパックを利用しなかった人については、酒田市のみ観光した場合に満足度が有意に下がる。ツアーパックを利用しなければ自由に旅程を組み立てることができることを考慮すれば、酒田市のみを訪問した人は観光地の情報が不足していて、より満足感を得られるような場所を訪れていない可能性がある。酒田市以外も周遊した観光客ほど、他地域の観光地との比較ができ、酒田市の魅力を感じ取ったのかもしれない。

昼食代と満足度との関係が、ツアーパックを利用した人とそうでない人で逆になっていることは注目に値する。前述のように、ある程度決められたルートで旅行する傾向にあるツアーパックの旅行者とは異なり、ツアーパックを利用しない人は自由に昼食の場所を選ぶことができる。にもかかわらず、昼食に多く支出した人ほど満足度が低いという結果は、ツアーパックを利用しない旅行者が昼食をとる場所を選択する際の情報が不足していることを示唆している。インターネット等で収集できる情報ではなく、地元の人が勧める店のような有益な情報がなければ、金額の高いものを食べたわりには満足できなかったと思うのも自然なことであろう。

酒田市の観光施策を考えるうえでは、複数年度で分析結果を比較する必要があるが、本年度の結果と昨年度までの結果を単純に比較することには注意が必要である。なぜなら、新型コロナウイルスの感染状況や、GoTo トラベルキャンペーンという政策介入の有無が時期によって異なっているからである。コロナ禍という外的ショックとそれに対処しようとする施策が観光客のタイプや行動を変化させた可能性があり、こうした点を明らかにするためには追加的な調査が必要になる。



## 6 まとめ

4章では、全回答者および年齢別、世帯年収別、同行グループ構成別、利用交通手段別での訪問地点数と訪問傾向について、前者は平均値を用い、後者は移動経路パターンをネットワークとして表現する手法を用いて分析した。また、5章では、回答者の観光地の訪問や消費支出、回答者の属性が酒田市に対する満足度に与える影響について、離散選択モデルに基づいた計量分析を行った。これらの分析で得られた結果を基に、酒田市の観光を活発化させるための政策提言を行う。

まず一つは、山居倉庫の役割についてである。山居倉庫がハブとしての役割を持ち、酒田市内の観光における重要な拠点となっていることは、これまでの調査においても同様の結果が得られてきたことから、もはやこの仮説は事実とみなしてもよいと考える。

現在、山居倉庫近くの旧酒田商業高校跡地（以下、跡地）を整備する事業が進められており、跡地を開発・運営する事業者の募集要項には、酒田夢の倶楽を跡地に移転する方針が明記されている。前述の通り、山居倉庫はこれまで酒田市観光のハブとしての機能を有していたが、今回の計画が現に実行された場合には、観光物産館の移転とともにその機能を失うことが考えられる。また、無論であるが、移転先である跡地に関しても酒田夢の倶楽が移転したとしても、ハブ機能を持つ保証はない。ハブ機能を持つ拠点が存在しないことが必ずしも悪いとは言えないが、酒田市全域の観光に関する情報発信の効率化や酒田市観光による満足度の底上げなどといったハブ的拠点が持つポテンシャルを失うことによるデメリットは決して小さなものではない。引き続き調査を進めていく中で、今後の動静について正確に見極めていく必要があるだろう。

4章と5章で示した結果からは、酒田市内の観光全体での利点や欠点を垣間見ることができた。該当する主な結果をまとめると、

- 若年層（0～29歳）が訪問する地点の数が少ないが、それ以外の世代においては訪問地点数に違いが見られない（4. 2節）。
- 有意な差は認められないが、昨年度と比べて老年を含む区分における訪問数の減少が見られる（4. 3節、4. 4節）。
- 世帯年収が上がるごとに訪問地点数が増加する傾向が見られるが、高所得層の区分になると移動傾向は多様ながら訪問地点数は減少する（4. 5節）。
- グループで旅行する成人男性は、1人で旅行する成人女性と比べて訪問地点数が少ない（4. 6節）
- 男女ともに、1人で旅行する場合の方が2人以上で旅行する場合より移動傾向が多様であり、範囲も広い（4. 6節）。
- 徒歩や自転車などといった、訪問地点を増やすごとにかかる費用の小さい交通手段ほど訪問地点数の平均値が大きいが、移動範囲は限定的である（4. 7節）。
- 酒田市内を旅行する人のほとんどが初めに山居倉庫（酒田夢の倶楽）を訪れる（4.

8 節)。

- 酒田市内を旅行する人のほとんどが最後に山居倉庫（酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館）、さかた海鮮市場・みなと市場、本間美術館のいずれかを訪れる（4．8 節）。
- 宿泊代と買物代にかけた支出額が高いほど、旅行者の酒田市内での観光に対する満足度は高い（5．3 節）。
- ツアーパックでない人は、酒田市のみを訪れる観光であると満足度を下げる（5．3 節）。
- 昼食代にかけた支出額が高いほど、ツアーパックを利用している人は満足度が高いのに対し、ツアーパックを利用しない人は満足度が低い（5．3 節）。

などの点が挙げられる。

上記の点とは別に、今年度の調査においては訪問地点数の減少と移動範囲の縮小を思わせる兆候が見られた。これが何によるものかを断定することは難しいが、やはり新型コロナウイルスの感染を防ぐためになるべくコンパクトな移動に留めようとする意識が影響したことが 1 つの仮説として考えられるだろう。また、昨年度においては一昨年度との違いが見られなかったが、調査を実施した時期と「Go To トラベル」キャンペーンの実施期間が重なっていたことが理由と考えれば整合的である。この仮説が正しければ、新型コロナウイルスが流行している中での観光誘致を行うことはあまり十分な効果を生まないであろう。しかし、この流行が終息した際に、それまで旅行を控えていた人々が一斉に旅行に出るようになる。そのことを見据えて、長期的な視点から誘致戦略を講じることが今の時期には得策であると考えられる。

また、5 章で述べた分析結果に基づけば、酒田市での観光に関する情報が不足していることが示唆される。昨今においては、インターネットの普及によって情報が容易に手に入る状況にはあるが、様々な情報の中から旅行者が個々の選好に合った対象を見つけ出し、選択することは必ずしも簡単ではない。旅行者が酒田市での観光において、自身にとっての最適な旅行プランを立てる上での水先案内人となるような、何らかのサポートを講じる必要があるだろう。

これらを踏まえると、酒田市内の個々の観光資源はもとより、酒田市で観光すること自体に魅力を感じさせるような宣伝活動を行うことも、持続性のあるモチベーションを与える意味では効果的であるかもしれない。また、今日に多くの人々の目に触れるような SNS を利用して訪問意欲を高めるような記事や写真を公開することも有効であると考えられる。

上記の結果を政策決定に反映させるには、やはりデータサンプルの量がまだまだ不足していると言わざるを得ない。今回やこれまでの調査で得られた結果を事実として裏付けるためには、今後も引き続き実態調査や効果測定を積み重ねていく必要がある。また、分析に関しても、旅行者の様々な傾向をアンケートデータから抽出する方法を今後も検討していくべきである。

参考文献

Welch, B. L. (1947) "The generalization of "Student's" problem when several different population variances are involved," *Biometrika* 34 (1-2): 28-35.